

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|--------|--------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|---|--|---|-------------|-----------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 |
| 北海道大学 | 学生ボランティア活動相談室 | ○「学生ボランティア活動相談室」 ・スタッフ：コーディネーター3名(非常勤)、業務補助学生5名 ・活動内容：ボランティアを希望する学生の相談に応じたり、心構え、事前研修、活動先の情報提供などの支援 ○毎年1回「学生ボランティア活動相談室」が中心となり、「学生ボランティア養成講座」(救急救命講習、体験学生の発表、障がい者疑似体験など)を開催している。 ○大学祭では「学生ボランティア活動相談室」のスタッフにより、バザーやパネル展を催している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | 本学学生 | 開室日：毎週月・水・金曜日(祝日・年末年始を除く) 開室時間：15:30~18:30 | 学務部学生支援課 | 8 | ○「学生ボランティア活動相談室」の設置により、ボランティア活動を希望する学生に対して、きめ細かな対応が可能となり、また、学外からの依頼に対しても迅速な対応ができるようになった。 |
| 弘前大学 | 学生ボランティア活動助成 | ボランティア団体に対し、消耗品を現物で支給 | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | × | × | ボランティア活動として過去2年の実績を有し、本学構成員のみから成る5名以上の団体 | 6月 | 学務部学生課 | 1 | ボランティア活動の場が広がり、新加入者も増え活発になってきた。 ボランティアの内容も年々工夫が伺われ、地域住民との信頼関係も良好で、学生が活動に対し達成感、満足感を得るようになった。 |
| 福島大学 | | 物品や施設の貸出し | | | | | | | | | | ①HEARTS(学生ボランティア) ②はらい川セツルメント | 通年 | 学生課学生支援係 | 2 | |
| 茨城大学 | 茨城大学社会連携事業会「助さん・格さんボランティアセンター」 | 事業会に登録された学生ボランティアが、活動に参加するために交通費を必要とし、かつ先方が負担しない場合に限って、実費交通費を支援している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ただし、アルバイト的なものは不可 | 茨城大学の学生及びサークル | いつでも可能 | 茨城大学社会連携事業会 | 2 | 地域に貢献することにより、学生の評価が社会から歓迎されるものとなり、それにより大学の評価も上がっている。 |
| 群馬大学 | 地域貢献活動学生協力者養成講座 | 地域貢献活動の理論的実践的学習の機会を提供するため、国立赤城青年の家で研修会を開催 | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | ○ | 地域貢献 | 9月 | 学生支援課 | 3 | 多文化共生インターンシップへの参加資格を得ることができる。また、地域の活動に積極的に参加する学生が増えた。 |
| 横浜国立大学 | 学生キャンパス・ボランティアの募集 | 学生による学生のための学内ボランティア活動を促進するため「学生キャンパス・ボランティア」制度を発足し、募集している。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 学内でのボランティア活動 (1)教育に関する支援を行う活動(ラーニング・アシスタント)、 (2)学生支援活動等に協力する活動(①ピア・サポート、②ピア・アドバイス、③キャリア・サポート) | 本学在学学生(研究生、科目等履修生、聴講生を含む) | 随時 | 学務部学生支援課 | 7 | 平成17年11月に募集し、12月から活動中 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|----------|----------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|---|--|------------|-----------------|-----------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 |
| 横浜国立大学 | ボランティア活動サークルへの物品支援 | 平成17年度から、「横浜国立大学が物品等を支援する学生団体に関する規則」に基づき、届出があった学生団体への物品支援制度を発足し、募集している。 | × | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 「横浜国立大学が物品等を支援する学生団体に関する規則」に基づき、届出があったボランティア活動サークル | 3月 | 学務部学生支援課 | 1 | 現在、募集中(平成18年1月まで) |
| 新潟大学 | 新潟大学震災ボランティア本部 | 新潟県中越地震の被災から復興するための環境づくりを応援することを目的に、学生の自発的な行動を基とし、大学が支援する組織として新潟大学震災ボランティア本部を立ち上げ、活動場所及び活動に必要な物品の支援等を行っている。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 新潟県中越地震の被災地の情報収集及び学内への情報発信、学内でのボランティア募集と斡旋他 | 新潟大学震災ボランティア本部 | 平成16年10月～ | 学務部学生生活支援課 | 4 | 新潟大学震災ボランティア本部の学生は、学生の主体性を最大限に尊重し、活動の内容は学生一人一人が自分のできることを考え、学生らしい活動が、たいへん活発に行われている。 |
| 上越教育大学 | 中越地震被災の東山小学校への支援 | 中越地震で大きな被災を受け、現在も間借り校舎で授業を続けている小千谷市立東山小学校への教育支援を実施している | × | × | × | ○ | × | × | × | ○ | 教育支援 | 小千谷市立東山小学校 | 11月 | 災害支援室 | 6 | 教員養成系大学としての特色を活かした支援活動により、社会との連携を図る事ができ、将来教員を目指す学生の資質の向上にも成果があった。 |
| 静岡大学 | 静岡大学学生ボランティア総合推進事業 | ボランティア活動に対する意識啓蒙のため、講演や各種体験の企画実施に対して財政支援等を行っている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | ボランティアネットワークほかボランティア関係サークル | 1～2月及び随時 | 学務部学生生活・就職支援チーム | 3 | 各種ボランティア関連サークルの活発化に貢献している。 |
| 名古屋大学 | 1. 就活サポーター支援 2. 就職支援サークル「Onn」 | 就活サポーターとして、後輩の就職活動を支援する学生団体に、支援する活動場所、文具、コピーサービスなどの財政支援を行っている。 また、ボランティア活動にあたるについての心構え等の事前教育を行っている。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 就職活動 | 1. 就活サポーター(進路の決まった4年、修士課程2年生で後輩の就職活動を支援する学生団体) 2. 就職支援サークル「Onn」 | 11・翌2月 | 学務部学生総合支援課 | 2 | 大学事務局が支援することで、担当課”後援”という形で、学内にイベントなどを周知でき、参加者増につながる。イベント開催時に学内施設を借りやすくなる。 |
| 名古屋大学 | ピアサポート支援 | 先輩学生が後輩学生の学習活動についての悩みや学生生活全般の悩みについて相談にのる活動であるため、事前の教育支援・活動場所、必要な文具等の財政支援を行っている。また、報告書を作成している。 | × | × | ○ | × | × | × | × | ○ | 学生生活に係る悩み全般 | ピアサポーターとして希望した学生 | 4・翌3月 | 学生相談総合センター | 2 | ・活動場所を確保できる。 ・財政面で、ピアサポーター(学生)の負担がなくなる。 |
| 京都工芸繊維大学 | 「学生ボランティア」学校サポート事業 | 京都工芸繊維大学の派遣する学生が、京都市立学校・園において、必要とされる教育活動の支援を行うことにより、教育活動の活性化を図るとともに、学生の資質の向上を図ることを目的とする。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 教育活動 | 京都市立学校・園 | 未定 | 学生サービス課学生生活係 | 3 | 平成16年12月14日に協定書を交わしたがまだ実績がない。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | | |
|------|-----------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|------------------|-----------------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------------|---|-----------------------|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 | |
| 神戸大学 | 神戸大学ボランティア講座 | 社会への奉仕、貢献等の涵養を図るため、本学の課外活動団体の学生との連携の下に開講している。2月中旬に学内で講義等を行い、その後約1か月の間の2日間、県内の福祉施設等で体験実習を行っている。 | ○ | ○ | × | ○ | × | × | × | ○ | ○ | 野宿者(ホームレス)訪問・支援 | 大学生全員を対象者として、うち定員50人で組織している | 2・3月 | 学務部 | 1 | ・ボランティア活動に参加する者の底辺の拡大 |
| 広島大学 | ボランティアセミナー | ボランティア活動を志す学生及びボランティア活動を目的とする課外活動団体へのボランティアの意義と社会に向けての影響力を研究する。 | ○ | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | 本学学生 | 12月(本年は2月) | 学生総合支援センター | 2 | 地域の様々なボランティア活動をしている方々を講師として招き、講演及び実践学習等を行っていただくことにより、学生はボランティア活動の幅広さを知り、ボランティア活動を行う際のよいきっかけづくりとなっている。 | |
| 愛媛大学 | 「お接待」の心に学ぶキャンパスボランティア | 平成16年度に「特色ある大学教育支援プログラム」に採択され、従来の草の根的に行われてきた学生同士の支援活動に注目し、その活動のさらなる発展を支援するものです。学習支援、生活支援、障害学生支援、留学生支援活動などを専任教員が指導・助言している。ピュアカフェという専用のオフィスを用意し、物品や活動の必要経費について予算措置をしている。現在下記の9グループが形成され活動している。 ・愛媛大学学生メンターズ(ESMO) (目的) 愛媛大学をよりよくするために、大学と学生の橋渡しになる。 ・火曜ナイトサロン実行委員会(TNS) (目的) 講演会、座談会、演奏会などを開催し、学生・教職員・市民相互の交流の場を設ける。 ・国際交流コーディネーター(ICO) (目的) 留学生と日本人学生との橋渡しとなり、日常的・継続的な国際交流ができるようコーディネートする。異文化交流の促進、相互理解を深める。 ・ボランティアコーディネーター(AIVO) (目的) 学生にボランティア情報を提供し、よりボランティアに親しんでもらう。 ・キャリア・サポーター(CS) (目的) 仕事や生き方に関する学習会・イベントを開催し、仕事や人生について学生に考えてもらう機会を創出する。 ・障害学生支援ボランティア(HSSV) (目的) ノートテイクや移動助介による支援を通じて、全ての学生がよりよい学生生活を送れるようにする。 ・メディアサポーター出版部(MSPT) (目的) 学生向け広報誌「愛U(ラブユー)」の出版を通して、学内外のコミュニケーションを活性化させる。 ・メディアサポーター映像部(MSBT) (目的) インターネット放送、映像作品を通して学内外のコミュニケーションを図っていく。(学内に映像配信を11月から開始している。) ・図書館サポーター (目的) 図書館案内ガイド、本の修繕手伝い等。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | SCV(スチューデント・キャンパス・ボランティア I年から4年生) | 年間通して | 愛媛大学教育・学生支援機構学生支援センター | 4 | ボランティア活動から多くの学生が相互支援に必要な具体的なスキルを習得した。学生達の動きに刺激され、教育・学生支援部のみならず、他の部局の職員においても学生と連携する動きが出てきた。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|------------------------|----------------------------------|--|----------------|-----------------------|-------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------------|---------|--------------------|------------------|----------------|-------------------------|-----------------|-----------------|---|
| | | | 医療 福祉 | 社会 教育・ 生涯学 習 | 学術・ 文化・ 芸術・ スポー ツ | 環 境問 題 | 災 害救 助 | 地 域安 全 | 人 権平 和 | 国 際協 力・ 国際 交流 | そ の他 | そ の他 の詳 細 | | | | | | |
| 鳴門 教育 大学 | 部活動等支援 ボランティア | 本学と鳴門市が協定を結ぶふれあい事業である。鳴門市の小・中学校・幼稚園において、部活動等の種類によって学内に適切な指導者がいない場合、鳴門市教育委員会を窓口として、本学の学生から部活動等支援ボランティアを募り、派遣する活動。 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 鳴門市内の小・中学校、幼稚園 | 6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 教務部学生課就職支援室 | 1 | 本学で学ぶ学生は教員を目指しているが、部活動等支援ボランティアを通し、学校現場により参加する機会を設け、より子ども達とふれあい、また、教諭、保護者と関わりあうことで、教職への関心を深めさせることができる。学生自身に主体的なボランティア活動の意識を芽生えさせ、学生と園児・生徒の相互の向上と新たな交流につながっている。このボランティアが本学が地域に密着し、地域とともに活動していくボランティア活動に広がってきている。 |
| 福岡 教育 大学 | 福岡教育大学 ボランティア支 援システム | 本学は、福岡教育大学ボランティア支援システムがその中心となって推進している。同システムの趣旨は、(1)学生の主体的ボランティア活動を支援し、学生の体験学習および学習促進に寄与すること、(2)ボランティアを通じて地域等への社会貢献を行うこととなっている。平成16年度末でその登録者は752名で学部生の25%になっている。ボランティア依頼は平成16年度143件で、学校関係が50%を占めており、参加率も80%を超え、学校関係からは大きな関心が示されている。具体的な支援は、各団体から文書で依頼申請書を受理し、掲示及びHPで情報を提供している。また、福岡県教育委員会とは連携して「ヤングアドバイザー事業」と「放課後チューター事業」に学生を派遣している。特に「放課後チューター」は県内各地の小中学校に140名もの応募があり、大きな成果をあげている。平成17年度から「ヤングサポーター」制度に衣替えし、継続して実施されることとなっている。なお、年度末には依頼状況、派遣状況及び学生の報告書などを掲載した「活動報告書」を作成し、入学式で全員に配布している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 学校教育 | 全学年 | 年間を通して | 学生生活課 | 2 | 教育現場、社会福祉施設、障害者支援団体等需要が多く、色々な企画に参加し円滑な運営に寄与したことへの貢献を評価されており、社会貢献の面からも多大な効果があると共に、本学学生の社会的実践力の形成の意味からも、高い効果が得られている。 |
| 佐賀 大 | ボランティア支 援システム | 佐賀大学ホームページにボランティア情報を掲載することによる学生ボランティア活動の支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 全学生 | 特になし | 学務部学生生活課 | 3 | |
| 鹿屋 体 育 大 学 | 学生のスポー ツボランティア 活動の支援事 業 | この事業は、平成16年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)の援助を受け、実施しているものである。平成18年度の全学的な実施に向けて、現在、支援システムの構築、試験の実施と改善を行っているところである。この取り組みは、地域の要望に応じて安全な指導が出来るように派遣支援(①スポーツボランティアの登録・派遣調整、②事前研修の実施、③損害賠償保険への加入指導)と、指導体験が実践的指導力の向上につながるよう学習支援(①指導力評価の学生へのフィードバック、②教材開発の支援や指導相談の充実等)を行っていく予定である。 | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | | 全学生対象 | 通年 | 学生スポーツボランティア支援室 | 20 | 学生が地域へ積極的に出ていくことで、地域のスポーツ活動を活性化することが出来る。また、学生の指導力をボランティア派遣先、学生自身、学生スポーツボランティア支援室の3者で評価し、その総合評価を学生へフィードバックすることにより、学生の実践的指導力を高めることができる。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|---|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|--------------------------|--------------|----------------------|---|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 岩手県立大学 | ラーニング・サポーター・プロジェクト | 役場の教育委員会と協定を結び、小中学校で活動する場を設ける(有償) | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 全学生 | 年間を通して | 教育・学生支援室 学生支援グループ | 1 | 教職課程を目指す学生等の経験として活かされる |
| ポルト長崎大学 | 現代GPシーボルトキャラバン「生と性の主人公になろう」 | 現代GPの実施に伴う活動の企画・運営に必要なボランティアスタッフの募集・指導及びその活動支援。 | ○ | ○ | × | × | × | × | ○ | × | × | × | 特に限定しない | 年間を通し実施 | 学生支援課 | 3 | 地域貢献、自発的な意欲有る学生の発掘、学生同士の意識向上 | |
| 北海道情報大学 | | | | | | | | | | | | | | 本学が公認するボランティア活動を行う課外活動団体 | | 学生サポートセンター事務室 | 2 | |
| 北海道文教大学 | 黄金フラワロードの植栽 | 恵庭市花いっぱい文化協会主催の花苗植栽事業 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 植栽 | 全学生 | 6月 | 学務部学生課 | 3 | 地域貢献 | | |
| 東北福祉大学 | 文部科学省「平成17年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」 テーマ:「ボランティア学習による21世紀型市民の育成」など | 特色GPで選定された「ボランティア学習による21世紀型市民の育成」は、本学の教育方針である「自立(自律)した市民の育成」に資するためのボランティア活動・学習の総合的支援に関する取組である。具体的には、全学生に対するボランティアガイダンスや「ボランティア手帳」の配布などを通し、ボランティア精神の高揚を図っている。また、地域社会と連携・協働し、社会参加・参画機会の創出や、地域社会の一員として現代的な課題解決に向けたボランティア学習を推進している。 | | | | | | | | | | | | 全学生・本学学生団体 | 一年を通じて支援している | ボランティアセンター | 7 | 現在学内学生団体は約40団体あり、1700名の学生が所属している。また、ボランティアセンターを利用する学生は年間1千名を越えており、全学生(約4000名)の約70%は何らかのボランティアに関わっている。ボランティアセンターが主催する講座や研修会の参加者も毎回300名余りの学生が受講し、ボランティア活動の振り返りや初めて活動を行うための事前学習を行っている。取組に対する外部評価として(株)リクルートが1999年に大学4年生の昼間部在学者数が600人以上である256大学の、大学4年生男女7万6800人に実施した「大学教育改革の学生認知度調査2000」において「単位として認めるなどボランティア活動を積極的に支援している」の項目で本学は全国1位(前回順位1位)となっている。 |
| 宮子城学院大学院女 | 宮城学院ハートフルボランティアサポート | 活動奨励のための助成金交付 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1月 | 学生支援課 | 1 | なんとなく取り組んでいたグループが、組織的に活動するようになった。また、新しい取り組みのグループができた。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|--------|--|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|-------------------------------------|------|---|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 仙台大学 | 学生支援センター内サポートグループ… ①ボランティアサポートグループ(一般ボランティア支援) ②ラーニングサポートグループ(障害学生支援) ③インターナショナルラーニングサポートグループ(外国人留学生支援) | ①ボランティアサポートグループ(一般ボランティア支援) イ. 学生のボランティア活動に関する情報収集とその提供、募集、登録、派遣の調整 ロ. 派遣要請団体・組織との相談、受付、派遣等の調整 ハ. ボランティア講座等の開設 ニ. ボランティア活動の場の開拓 ホ. 関係団体との連絡調整 ヘ. その他支援に必要な業務 ②ラーニングサポートグループ(障害を持つ学生の科目履修支援) イ. ノートテイク支援学生等の募集調整 ロ. ノートテイクの養成・支援 ハ. 学習支援に必要な備品・消耗品等の予算計上、調達 ③インターナショナルラーニングサポートグループ(外国人留学生支援) イ. 語学交流・語学支援学生の募集、調整 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | | 本学のボランティアセンターにてボランティア登録を行った本学の学生 | 通年 | 学生支援センター: ボランティアサポートグループ(教職員計5名)&教育ボランティア担当(教職員2名)、ラーニングサポートグループ(教職員計3名)、インターナショナルラーニングサポートグループ(教職員計3名) | 13 | 平成15年度平成16年度 ボランティア登録学生 209名 291名 ボランティア活動(のべ) 592名 833名 ボランティア単位認定者 42名 52名 ※学生ボランティア活動に関する意識調査より ①活動動機 ・困っている人の助けがしたい…94.5% ・自分の社会性を豊かにしたい…87.6% ・さまざまな人と出会い友達になりたい…86.2% ・感動できる体験がしたい…85.3% ・コミュニケーションがうまく取れるようになりたい…84.6% ・自分のやりたいことを発見したい…81.4% ・地域や社会をよりよくしたい…80.8% ②ボランティア活動について ・ボランティア活動をすることは楽しい…84.6% ・ボランティア活動は”何かしてあげる”というものではない…79.3% ・ボランティア活動をするのは”特別なこと”ではなく”普通のこと”…73.1% ……ボランティア活動を通して社会性やコミュニケーション技術を身につけたい、やりたいことを発見したいなど、自分の存在価値を見つける自己理解・自己実現の場としての期待が大きいことが伺える。 |
| 八戸大学 | | ボランティア団体(サークル)への経済的支援。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | | 団体名 ヒューマン・ヘルス 1~4学年(本学の学生によるサークル団体) | 通年 | 学生部学生課 | 3 | 地域貢献及び参加の促進。 |
| 石巻専修大学 | 石巻市教育支援ボランティア | 教育ボランティア ・教育委員会を通じて、市内の小・中・高校の教育現場での児童や生徒の学習や放課後の活動補助の情報提供。 ・ボランティアサークルへの財政的補助。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学生(掲示で紹介)とサークル(個別に紹介) | 通年 | 学務課学生生活係 | 1 | ・地域貢献 ・学生の教育への理解 ・コミュニケーション能力の向上 ・社会人としての自覚 |
| 石巻専修大学 | 大学健全育成ボランティア(ボラリス宮城) | ・少年の健全育成や保護活動の情報提供 ・県警察との連携 | × | ○ | × | × | × | ○ | × | × | × | | 全学生(掲示で紹介) | 5月 | 学務課学生生活係 | 1 | ・地域貢献 ・コミュニケーション能力の向上 ・社会人としての自覚 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|----------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|------------------|--------------------|------------|---------------|-----------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 仙台白百合女子大学 | | 新たなボランティア活動先の開発 ボランティア情報の提供 ボランティア保険の加入手続 ボランティア先との仲介 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | ボランティアサークル 又は個人 | 通年 | 学生課 | 1 | ボランティアサークルに関しては全員がボランティア保険に加入することによって、安全な活動ができるようになった。またボランティアの掲示板はあっても見ない学生も多いので、部、又は個人に直接伝えることで、少しでも興味をもってもらえているのではないかと。 |
| 東北文化学園大学 | ノートテイク (有償ボランティア) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 千葉商科大学 | ISO14001に関する環境活動支援 | 大学が認証を取得しているISO14001の環境活動推進のために、共に環境活動に参加しているサークルに対し大学はESCO契約を結んでいる。 ESCOとは、英語の「Energy Service Company」の頭文字をとったもので、ESCO(会社)が工場などと契約し、電気代などのエネルギーコストを削減する約束をし、約束どおり削減した場合、削減したエネルギー代の一部を報酬として受け取る新しいビジネスである。 これと同様に学生が大学における環境活動において得ることの出来た電気代などの節約分の一部を環境に関する活動費として渡し、更なる環境推進活動を行う資金として提供している。 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 環境ISO学生会議 | 常時 | ISO事務室 | 4 | ISO14001認証の継続 |
| 千葉商科大学 | 通学路クリーン作戦 | 通学路の清掃活動制服の貸与 | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 不定期 | 学生課 | | 通学路の清掃活動を通じ本学学生である事をアピールすることによって、大学周辺地域の方とコミュニケーションを図るきっかけとなったり、相互理解を得られるようになった。 |
| 神奈川大学 | | 各ボランティア活動に対しての説明会(学内で開催)・各ボランティア分野の勉強会 | ○ | × | × | ○ | × | × | × | ○ | ○ | 子供・青少年・教育 | 制限無 | 6月(2005年度) | 学生ボランティア活動支援室 | 6 | ・各説明会を経て、活動に参加する学生が増えた。 ・夏休みにとどまらず、継続して活動している学生も増加した。 |
| 関東学院大学 | | | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 1年次配当 団体特に指定なし | | 基礎・教養科目教室 | 1 | 単位(ソーシャルサービス)の修得 |
| 城西大学 | CJP(クリーン城西プロジェクト) | ボランティア団体に対する物的支援。 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | | 全学生団体 | 通年 | 学生課 | 5 | 学内外の清掃により清潔が保たれ、大学近隣の住民にも感謝されている。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担 当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|----------|-----------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|----------------------|---|-----------------------------------|------------|---|-------------------------------------|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 城西大学 | | 新たなボランティア活動先の開発。 ボランティア団体に対する物的支援。 | ○ | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | J-NET | 通年 | 学生課 | 5 | 清掃活動により、地元の方にも感謝されている。 |
| 城西大学 | | 福祉施設と学生団体とのコーディネート及び仲介。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 落語研究会 | 通年 | 学生課 | 5 | 老人ホーム等で落語の講演会などを行い地域との良好な関係が保たれている。 |
| 淑徳大学 | 淑徳大学地域支援ボランティアセンター | <ul style="list-style-type: none"> ・スマトラ沖地震の被災状況から、学長自ら先頭に立ち淑徳大学として被災地や被災者の救助救援を早く実現するよう学生厚生委員会に働きかけがあり、地域支援ボランティアセンターを早く立ち上げるよう促され、本年7月にセンターの立ち上げに至った。 ・大学内にすでに開設されているボランティアサークルとの連携をとるため話し合いを継続してきている。 ・学外からのボランティア募集は、募集内容に応じて既設のボランティアサークルに情報を提供し対応してもらっている。 ・初めてボランティア活動をしたという学生には、コーディネーターが関係施設に向いて施設の様子や施設長から具体的な話を伺う。その後で学生にボランティア活動の内容を説明し学生に対応してもらっている。 ・学生派遣先 養護学校学園祭、公立中学校自然教室補助員、老人ホームデイサービスの補助や演奏会、警察の防犯対策事業(葉の花ユニバース) | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | | 9・10・11月 | 学事部 学生厚生 地域支援 ボランティアセンター | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生自身初めての体験であるため、最初は手を出さず戸惑うことが多い。活動を通して、人の温かさから多くのことを学び、深い信頼関係の絆が生まれる。活動をしてよかったという満足感と自信が付き、今後も継続してやろうという意思決定につながってきている。 | |
| フェリス学院大学 | 学内組織(ボランティアセンターを通しての学生ボランティア活動支援) | ボランティア活動についての情報収集と案内・新たなボランティア活動先の開発・学生ボランティア活動に対する相談対応・学生個人及びボランティア団体に対する財政支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 学生は全学年、団体は学内ボランティア団体 | 情報収集、活動先の開発、ボランティア活動への相談は1年中。学生個人及びボランティア団体に対する財政支援 12・1月 | ボランティアセンター | 3 | 学内の学生及び団体のボランティア活動に対する関心が高まり、活動継続及び新たな活動への参加等、活動を行なう意欲が増加した。 | |
| 中央学院大学 | 盲導犬 | PR及び募金活動をし、盲導犬を寄付する | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | アクティブセンター | 通年 | アクティブセンター事務課 | 7 | 社会福祉に貢献 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|--------|-----------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------------------|--------------------|-------------------|------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 東京工芸大学 | ボランティア支援センター | 情報提供、費用の補助、企画の補助 | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | | ボランティアサークル (学生の同好会) | 8・10・11月 | 学生課 | 6 | 募金などの人道的援助、社会還元、また社会に役立つ人材育成につなげていきたいと考えている |
| 長野大学 | 長野大学中越地震被災者支援ボランティアの会 | 被災地の福祉施設等で勤務している卒業生からのボランティア要請に対して継続的な学生派遣を実施するための後方支援。 | ○ | × | × | × | ○ | × | × | × | × | | 全学生 | 平成16年11月から平成17年3月 | 学生課 | 15 | 福祉施設への継続的なボランティア派遣が実現できた。 |
| 産能大学 | 国際ユースアワード活動の推進 | 学生のバランスよい成長を目的として、任意登録による下記の4分野の活動を支援し、一定期間活動を継続して目標達成した学生を表彰するもの。イギリスにおいて活動が始まり、世界各国で取り組まれている。 ①ボランティア ②スポーツ ③知識、技能の向上 ④キャンプによる自然環境とのふれあい この中で、ボランティアについては事前研修、情報提供、活動上の相談対応等を特定の教員が担当して行っている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 学生個人 | 通年 | 学生総合サービスセンター、担当教員 | 5 | ボランティア活動経験者には、さらに活動を発展させる機会を提供でき、また未経験者には研修や相談対応により、効果的なボランティア体験となっている。 |
| 白鷗大学 | エコキャンパス | 構内及び大学周辺のゴミ拾い | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | | 学生会や部・サークルなど学内の全団体。全学年。 | 6・10月 | 学務部学務課 | 1 | 構内及び大学周辺に落ちているゴミの量が減少した。また、学生自らゴミ拾いをするにより、美化意識の向上を図り、ゴミを捨てにくい環境をつくることできた。 |
| 神田外語大学 | | 本学は、外国語の単科大学のため語学の運用に於いて、社会貢献をおこなうこと、学生が授業で学んだことを社会で活用し、学生自身の社会性・人間性を育てることを目的に、通訳ボランティアの招致活動を展開中 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | | | 学生課 | 3 | 社会貢献及び参加学生のキャリア形成への気付き及び社会性・人間性の育成 |
| 聖学院大学 | 学生課 | 学生ボランティア団体の支援 ①企画相談②企画提供③社会福祉協議会との連絡調整 | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | ○ | × | | ・ボランティア部会 ・ボランティア掲示板運営委員会 | 4・5・6・7・8・9・10・11月 | 学生課 | 2 | 学内で一般学生対象のボランティア合同説明会を学生主催で開催し、学外団体の活動等を展示している。年2回開催し、ボランティア活動のきっかけ作りに役立っている。 |
| 文京学院大学 | 地域連携センター BICS | ボランティア情報の提供・相談、ボランティア体験・学習、交流会の開催など。 | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | | 全学年 | 年間をととして | 地域連携センター | 8 | 学生のボランティア活動の活性化、地域と連携した諸事業の実施による学生活動の発展。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|----------|--------------------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|-------------------|-----------------------------|------------------------------------|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 敬和学園大学 | | ボランティア論の必修科目化、1年次生対象の全学ボランティアデーの実施、福祉施設を招いての福祉交流会の実施、ボランティア学習の自由単位化、ボランティア活動に著しい功績のあった学生の顕彰。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | | 全学 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | ボランティア委員会、ボランティアセンター | 7 | |
| 国際医療福祉大学 | 学内に「IUHWボランティアセンター」を設置(2005. 10. 1～) | ①学生のボランティアニーズへの対応 開学10年が経過し既にボランティアサークルが多数存在。また個々の学生のボランティア意欲も高く、現状でも十分ボランティア活動が活発といえるが、学生がよりボランティア活動に参加しやすい環境を整えるため、ボランティアセンターではボランティアに関する相談や情報提供、助言、ボランティア活動の斡旋や各関係機関との連絡・調整を行う | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 全学生 | 通年 | IUHWボランティアセンター ※IUHW－国際医療福祉大学の略 | 2 | 予測される効果 ・学生のボランティア活動に関するニーズに効果的に対応できる ・学生のボランティア活動への興味・関心を高めることができる ・学生のボランティア活動への興味・関心が高まることによって、学生のボランティア活動による教育的効果が期待できる。ボランティア活動が適切に展開されれば、対人援助職にとっての重要な価値観、思考力、行動力、市民性が養われる ・学生と地域のつながり作りを促進できる |
| 国際医療福祉大学 | 学内に「IUHWボランティアセンター」を設置(2005. 10. 1～) | ②本学関連施設・病院のボランティア・ニーズに対応する 本学は大学関連施設として、多数の社会福祉関係施設、病院を有している。現在も国際医療福祉リハビリテーションセンター、おたわら総合在宅ケアセンター等で多数の学生ボランティアが活躍している。施設・病院には、多数のボランティア・ニーズが存在すると思われ、これらのボランティア・ニーズに対応し、学生のボランティアや地域のボランティアを適切にコーディネートするためにも、V. Cの存在が不可欠である。 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学生 および 地域のボランティア | 通年 | IUHWボランティアセンター | 2 | 予測される効果 ・大学関連施設・病院のボランティア・ニーズに適切に対応できる。 ・適切なボランティア活動が展開されれば、施設・病院のサービスの質を高めることができる。 ・学生が関連施設で学ぶ機会を増やすことができる。 ・関連施設職員にとっても相互学習の機会となる。 |
| 国際医療福祉大学 | 学内に「IUHWボランティアセンター」を設置(2005. 10. 1～) | ③地域のボランティア・ニーズに対応する 本学は対人援助の専門職を養成する大学であることから、地域の様々な機関から、ここで学ぶ学生ボランティア要請が極めて多い。これは大学に対する地域からの期待が大きいことのあらわれであり、このような地域からのボランティア要請に的確に応え、大学の持つ専門的・知的資源を地域還元していく側面から、V. Cが必要である。 また、本学が地域の人たちのボランティア活動の拠点として機能することも地域社会貢献として重要な役割となる。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 地域のボランティア | 通年 | IUHWボランティアセンター | 2 | 予測される効果 ・地域のボランティアに関するニーズに効果的に対応することができる ・地域と大学の連携を深めることができる ・地域と学生のつながり作りを促進できる ・地域のボランティア活動の拠点として機能できる |
| 身延山大 | | | ○ | × | × | × | ○ | × | × | × | × | | | | | | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|----------|-----------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|-------------|--|----------------|-----------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 平成国際大学 | | 4月にボランティア希望者を掲示で募り、外部からの依頼があった場合に情報を提供 | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 全学年 | | 学生課 | | |
| 橋国愛国際学園 | | ◎財政支援 ・ボランティア保険加入費 ・パイロットインターナショナル登録費 ・コンベンション登録料 等活動に必要な費用を補助している。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | アンカークラブ | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 学生センター | 1 | 安心して安全に活動できるようになった。 |
| 共国愛国際学園 | | ◎財政支援 ・合唱指導者依頼補助 ・オルガニスト派遣補助 ・合唱練習合宿補助 ・慰問旅費補助 等活動に必要な費用を補助している。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | ○ | ○ | × | | 聖歌隊 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 宗教センター | 5 | より積極的に施設を訪問して演奏、賛美歌披露を行うようになった。 |
| 新潟医療福祉大学 | 新潟医療福祉大学 学生ボランティアセンター | <ul style="list-style-type: none"> 新潟市立松浜中学校「ふれあい学習タイム」→生徒の勉強の手伝いや、悩みなどの相談にのる。 新潟市立濁川中学校「学習支援ボランティア」→勉強が得意でない学生の手伝いや、悩みなどの相談にのる。 北地区親子会「濁川チャレンジ体験塾」→毎月1回活動。恵まれた自然環境の中で野外活動などを行ったり、様々な体験をすることにより仲間作りをする機会とする。 新潟市立松浜小学校ふれあいスクール「浜っ子ふれんずパーク」→地域の大人と子ども達が触れ合うことにより、地域ぐるみの青少年の健全育成を図り、子ども達に安全な遊び場を提供することを目的としている。 豊栄青年会議所 豊栄ニュースポーツクラブ「ニュースポーツ交流会」→障害のある方が中心となっているクラブの方に障害者スポーツを指導していただいたり、試合形式でゲームを障害有無に関わらず、分け隔てなく一緒に楽しむ。 敬和学園大学「パキスタン・インド地震義援金集めのバザー」→10月8日にパキスタン北東部でマグニチュード7.8の地震があり、多くの被害が出た。救援物資や治療が行き届かず、今なお死者が増えている。「第二の死の波」を防ぐため、また一日も早い復旧を願い、チャリティーバザーを行い、その売上を義援金として送る。 | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 中学生に対する学習支援 | 新潟医療福祉大学 学生 | <ul style="list-style-type: none"> 松浜中学校: 6月～年間を通して 濁川中学校: 11月～年間を通して 松浜小学校: 5月～年間を通して 濁川チャレンジ体験塾: 6月～年間を通して | 新潟医療福祉大学 学生委員会 | 7 | <ul style="list-style-type: none"> 濁川中学校・・・生徒と一緒に問題を解いていく中で、次第に打ち解けていくことができた。問題を解こうという姿勢も見られ、非常に良かったと思う。 松浜小学校・・・学生・児童ともに有意義な時間を過ごすことが出来た。また、松浜地区の小学生と触れ合うという形で地域交流にもつながった。 松浜中学校・・・一緒に考えることで、答えをただ教えるよりも意欲や思考力が高まっている。また、学生と生徒間でお互い楽しい時間を過ごしている。 濁川チャレンジ体験塾・・・地域の子どものお母さんと交流できる。子ども達に普段学校では体験できないことを異学年、年代で交流できる機会を作ることが出来る。 ニュースポーツ交流会・・・障害のある方やクラブの方々と一緒に参加した本学学生を含め、他の学生達が障害者スポーツを通して障害のある人たちの気持ちを理解することができた。皆で障害者スポーツを楽しむことができた。 パキスタンチャリティーバザー・・・今後実施予定。 敬和学園大学「ふれあいバラエティ」・・・障害者・高齢者との身近なふれあいをする事が出来た。たくさんの人との交流をすることが出来た。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|----------|---------------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|-----------|--|------------------|----------------------------|-------------------|--|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 新潟医療福祉大学 | 新潟医療福祉大学レクア・コム部 | <ul style="list-style-type: none"> 新潟市北地区公民館の完全週5日制対応事業企画・運営。 新潟県内の学生ボランティアネットワークの形成支援(ボランティアサミットの開催等) 新潟県内の障害児放課後の休日活動支援 北新潟地域づくり学会の企画・運営 新潟県ボランティアセンター及び県内市町村ボランティアセンターの人材育成支援 学生ボランティアセンターとの連携 学生に対するボランティア情報の提供 新潟市北地区の青少年健全育成活動支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | <ul style="list-style-type: none"> 学生 公民館 小中学校 養護学校 県社協 市町村社協 青少年県健育成団体 県内関係大学 | 1年を通じて | 学友会 | 1 | <p>「サミット」・他大学との横のつながりが出来た。・他大学と協同で1つの事業に取り組む「一休さん」・完全週5日制により、休日になった土曜日に異年齢・異学年との交流や、地域での色々な体験を通して社会性を学び、それにより小学生の健全育成に繋がっている。</p> <p>「障害児放課後活動支援」・一緒に遊ぶということ、楽しむということが個々の活性化に繋がる。</p> <p>「キャンプ」・外であまり遊ばなくなった子どもたちに自然と触れ合う楽しさや感動を感じてもらう。また、かまどなどで自分たちで料理を作ることにより、料理を作る難しさや食べ物への有りがたみを知り、日々の生活の重みを感じてもらう。</p> <p>「人材育成」・学生相互の人材育成や自己啓発につながる。</p> | |
| 浦和大学 | さいたま市“うなぎ祭り” | イベントの支援活動及び参加 | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | ○ | 地元「さいたま市民」と「大学生」との交流 | 全学部生 | 5月 | 植屋研究室及び学生・就職課内学友会 | 2 | 将来的に若い力による地域の活性化につながる。地元の子供たちとの交流によって子供や地域から喜びを得る。福祉職としての温かい気持ちや思いやりの心の育成。支援活動によって授業の実践的教育効果を得る。 |
| 浦和大学 | さいたま市緑区「区民祭」 | イベントの支援活動及び参加 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ | 地元「さいたま市民」と「大学生」との交流 | 全学部生 | 11月 | 植屋研究室及び学生・就職課内学友会 | 2 | 将来的に若い力による地域の活性化につながる。地元の子供たちとの交流によって子供や地域から喜びを得る。福祉職としての温かい気持ちや思いやりの心の育成。支援活動によって授業の実践的教育効果を得る。 |
| 創造学園大学 | ボランティアセンター | 学生ボランティアの情報提供、指導、フォローアップ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | × | 全学生、ボランティアサークル所属の学生 | 通年 | ボランティア担当教員の研究室 | 3 | 更なるボランティアへの参加意欲。社会的課題に対する関心の高まり。 | |
| 大妻女子大学 | (社)学術・文化・産業ネットワーク多摩「学生教育ボランティア」 | 「学生教育ボランティア」は、東京・多摩地区の産官学連携団体である社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩の初・中等教育との連携事業。平成14年度からボランティア学生の募集・派遣に協力している。本事業は、多摩地区20教育委員会と提携して公立小・中学校へネットワーク多摩加盟大学の学生を「お兄さん・お姉さん先生」として派遣し、教育補佐等をするもの。 | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | ○ | 初等教育・中等教育 | 多摩校所属1・2・3・4年生 | 4・5・6・7・9・10・11月 | 多摩事務部教育・学生支援センター(学生支援グループ) | 2 | 平成16年度を例にとると、「学生教育ボランティア」応募者22校330人のうち、本学は35人(10.6%)を占めた。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|--------|--|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|-----------|---------------------------------|------------------|----------------------------|------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 大妻女子大学 | (社)学術・文化・産業ネットワーク多摩「フットサル総合イベントTAMA-CUP」 | 「フットサル総合イベントTAMA-CUP」は、ネットワーク多摩の産官学連携事業。平成15年度から開始。学生・社会人合計200チームが集まるフットサル大会で、小学生サッカー教室も併催。加盟大学学生が企画運営をボランティアとして手伝うが、ボランティア学生の募集に協力。また、フットサル大会ボランティア学生を集めた課外活動団体「team-唐木田」を結成させ、自立的・継続的にボランティア活動を行える環境を整備させ、活動補助金を支給している。 | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | ○ | 初等教育・中等教育 | 多摩校所属1・2・3・4年生、課外活動団体「team-唐木田」 | 4・5・6・7・9・10・11月 | 多摩事務部教育・学生支援センター(学生支援グループ) | 2 | 課外活動団体「team-唐木田」の部員26人が「フットサル総合イベントTAMA-CUP」の企画・運営に携わった。 |
| 共立女子大学 | 地域と連携した活動の支援 | ・地域の要請にあったボランティア活動への学生参加支援 ・地域のボランティアセンターなどと共同で行うボランティア活動の実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | | 全学年 | 通年 | 共立女子大学・短期大学ボランティアセンター | 3 | ・学生が自己の可能性を発見し、自信がつく。 ・学生の地域への関心、結びつきの強化ができる。 |
| 共立女子大学 | クリスマスチャリティコンサート | 学内資源を活用したボランティア企画 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学年 | 12月 | 共立女子大学・短期大学ボランティアセンター | 3 | ・ボランティア活動への理解と関心の向上 ・チャリティー先である日本盲導犬協会への協力と理解 ・学生同士のボランティア情報の交換 |
| 実践女子大学 | 学生教育ボランティア | 地域の新たな魅力づくりとボランティアの活性化を目指すための活動先の支援。 | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学部・全学年 | 6月～翌年3月 | 大学事務部学生担当 | 3 | 学生に社会的な活動に主体的に参加できる場を提供し、社会人としての資質を育てる。 |
| 女子美術大学 | ヒーリング・アートプロジェクト | 壁画の制作は主に長期休暇を利用して制作をおこなうため昼食のお弁当および絵具等材料を提供している。 | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | | 1年～4年、大学院生 | 7・8・9月 | 学生支援センター | 4 | 病院内の入院患者・外来者・職員の癒しとなる。社会貢献型の経験学習、サービランニングの教授法になる。 |
| 聖心女子大学 | | ボランティア活動先に関する情報提供、ボランティア活動に関する相談受付、ボランティア活動促進のためのネットワーク作り、その他ボランティア活動をしていく為の後方支援 | × | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | | 全学年 | | マグダレナ・ソフィアセンター | 2 | 学生の内面的成長 |
| 東海大学 | ユニークプロジェクト | ボランティア団体に対する財政支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 5名以上の本学の学生で構成する団体 | 6月 | 教学部 | 10 | 活動が継続的に行われ、年々活発になっている。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | | |
|----------|-------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|------------------|---------|---------------------------------|--------------|--|---|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 | |
| 中央大学 | | 学生教育ボランティアの募集窓口。新たなボランティア活動先の開拓。現在ボランティア活動を行っている学生団体への便宜供与。潜在的なボランティア活動希望者への情報提供・各種相談。各種ボランティア情報の収集・広報。ボランティア養成・育成プログラムの実施。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 学生のボランティア活動支援において、特に活動分野の指定はない。 | 通年 | 主に「学生部事務室学生課<課外生活グループ>」(ただし下記の支援担当者数は全員兼務者であり、専任担当者はいない)。その他に「学生部事務室理工学部学生生活課」、「学友会事務室」。 | 4 | ボランティア活動に参加する学生の増加。ボランティア活動を実践している学生の自己実現の具現。キャンパス内の活性化。地域社会等への貢献。 |
| 東京家政大学 | | ①教育ボランティア(埼玉県学生サポート配置事業、狭山フレッシュ支援事業)派遣 ②近隣の図書館・博物館・福祉施設等でのボランティア開拓 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × | × | × | × | 在学1～4年生 | 通年 | 地域連携協力推進センター | 2 | ボランティア体験した学生達が生き生きしている。特に教育ボランティアに参加した学生達は小・中学校で子供達の個性に触れ、学校の大切さや教育の難しさを肌で感じ、貴重な体験ができたとの喜びが伝わってくる。教員志望の気持ちが強くなったという声も聞かれる。 以上のようなことから支援した効果は上がっていると思う。 | |
| 東京女子大学 | ボランティア講座 | ・講座開講により、ボランティア活動の啓発 ・講座受講により、社会奉仕体験理論の単位認定 ・講座受講により、社会奉仕体験実習の単位修得へのステップアップ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | 全学年のうち、履修希望者 | 4・5月 | 地域交流センター | 14 | 本年度のボランティア講座は、最も多いときに56名が受講し、受講した学生の多くが、社会奉仕体験理論の単位が認定された。社会奉仕体験活動を行った学生から、「視野が広がった」などの感想が得られた。 | | |
| 東京女子体育大学 | ボランティアサークル(サークル名:VRC)活動 | ・ボランティア活動の啓発 (優先的にボランティア情報を連絡) (普通救命講習会をサークルメンバー優先に開講) ・ボランティアサークルの活動報告支援 (ポスター作成・学園祭での活動報告に必要な消耗品等の準備等) | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ボランティアサークルメンバー | 年中 | 地域交流センター | 8 | ボランティアサークルが発足して3年目を迎え、ボランティアについてのポスターを作成・掲示したり、学園祭では活動状況を展示・報告するなど、学生や教職員に広報している。このような取り組みによって、ボランティア活動に興味を示す学生が増えてきている。今後は、地域との取り組みも検討している。 | | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特になければ空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担 当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-------|-----------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|-----------|------------|--|-----------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 東京音楽大 | アクトプロジェクト | ボランティア活動経費の学校負担、ボランティア先の紹介 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 1～3年生 | 通年 | 音楽学研究室・教務課・演奏家・学生課 | 8 | 「アクトプロジェクト」の一環として活動を始めましたが、教職員と学生の間で情報交換や協働作業が活発になっています。 |
| 星大 | | | ○ | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | ボランティア同好会 | 年間 | 学生部 | 3 | 障害者に対する認識が高まった。災害で被害を受けた方の心の痛みがわかった。 |
| 武蔵大 | 課外活動奨学金 | ボランティア活動で申請のあったものを奨学金選考委員会で審査する。財政支援の一環としている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 団体および学生個人 | | 学生生活課 | 5 | |
| 明治大 | 大学教育の国際化推進プログラム(国際GP) | 平成17年度文部科学省の「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育実践支援)」(国際GP)に「大学教育における障害者学習支援」が選定された。今回選定された「大学教育における障害者学習支援」は、高等教育のユニバーサルアクセスを実現するため、すでに多くの実績を有する諸外国の大学機関に学び、全学的なボランティアセンター及び学習支援の実現化を図ることを目的としている。本学における障害者教育の実践者、社会教育およびバリアフリーの専門家を、障害者学習支援の優れた教育実践を行っている海外の大学に派遣し学ぶことによって、本学の障害者学習支援の飛躍的発展を図る。派遣先として障害者の学習支援の制度が充実している長年の協定校であるスウェーデンのリンシェーピン大学(同大学が所在するリンシェーピン市は、福祉先進国であるスウェーデンのなかでも特にユニバーサルデザインに優れた都市であり、大学だけでなく自治体との連携についても学ぶことができる。また同市は、古くから障害者、子供、高齢者等に関する社会的ケアの仕組みづくりにおいて、きわめてユニークでかつ評価の高い取り組みを行っているところである。)とアメリカのオレゴン大学(1968年の建築バリア法により、まず教育施設のハードの環境整備が着手され、1973年のリハビリテーション法504条、1990年の障害を持つアメリカ人のための法律によって、ほとんどの大学で障害を持つ学生へのサポートシステムが整備されている米国にあって同大学は卓越した取り組みを行っており、多くの障害学生を受け入れている。大学内には障害者支援室が開設され、カウンセリングにはじまり、ノートテイク、手話通訳、朗読等のサポートサービスのコーディネートを行うと同時に、コンピュータやデジタル情報利用等のアドバイスを行っている。)に教職員を派遣、その成果が大いに期待される。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | | 学長室事務室 | | 本取組みにより、これまで個別に行われてきた各学部などの教育支援体制が、全学的システムとなり、障害をもつ学生への支援の大幅な改善を図ることが期待される。明治大学のような総合大学で障害者の学習支援を充実させることは、障害をもつ学生が幅広い教養だけでなく、たとえば経営学などの専門分野を学び、広範な人的ネットワークを築くことで、様々な職業に就くことや、また起業をするためにも重要である。学生が障害者との共生を実体験として学び、またボランティア活動などを通じて、勉学への意欲・モチベーションを高め、現代の学生に最も必要とされと言われてきている社会性・人間性を養うことが期待できる。このように障害をもつ人への学習支援は、学習権の保障の観点からだけでなく、学生ボランティアの活用を含めた福祉教育並びに人権教育の面からも、学生、教職員への効果は大であると考えている。 | | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 |
|--------|-----------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|--------------------------|------------------|------------------------|--------------|----------------------------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 明治大学 | 災害救援ボランティア講座 | 総務省消防庁・NHK後援「災害救援ボランティア講座」を千代田区支援事業として毎年実施している。10月の3日間、本所防災館と明治大学において、災害の模擬体験、応急手当活動の講習をはじめとした、実践的な講座を行っている。防災基礎知識や応急手当を学び、大規模災害等の非常事態に対する備えとして効果を挙げている。 | ○ | × | × | × | ○ | ○ | ○ | × | × | 在学生 | 毎年10月 | 教務事務 部教務課 | | 災害救援ボランティアに必要な基礎的知識・技能を身に付けることができ、大規模災害に対する防災意識や、救援に関する意識の向上をみた。 |
| 明治学院大学 | ボランティアセンターによるボランティア活動の全般的支援 | ボランティア活動プログラムの開発、実施ボランティア関連イベントの実施、セミナー・講演会など | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | 全学生、ボランティアグループ | 全期 | ボラン ティア セン ター | 4 | 学生のボランティア活動への理解、学習、啓発、キャリアデザインなど | |
| 立教大学 | 立教大学ボランティアセンター | ボランティア情報の収集、提供、ボランティア活動支援 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | 全学生 | 通年 | ボラン ティア セン ター | 3 | 学生のボランティア活動への関心、参加が高まる。 | |
| 立正大学 | ボランティア講座 | ボランティアの基礎知識・専門知識の習得および対処能力向上を目的とした専門家による講習会(社会福祉学部の予算で実施している) | ○ | ○ | × | × | ○ | × | × | × | 社会福祉学部学生 | 8・2月 | 社会福祉学部 | 4 | 各種ボランティア要請に対してボランティア学生の対処能力の向上 | |
| 明星大学 | | | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | × | 初等教育研究会 どろんこの会他学生サークル | 通年 | 学生課 | 1 | | |
| 杏林大学 | クリーンキャンペーン | 清掃道具の貸与 飲料水の支給 | ○ | × | × | ○ | × | ○ | × | ○ | 環境美化 | 学生 | 6・12月 | 学生課 | 8 | ・学生間に団結(結束)力が高まった。・学生課と学生のコミュニケーションが行えた。・施設等、美化が強化された。・地域住民に賞賛を得た。 |
| 杏林大学 | 保健学部ボランティア部 | 医学部付属病院に入院中の幼、児童への学習指導及び遊び相手など | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | 医学部付属病院入院患者 | 年間 | 学生課 | 8 | 病院内における患者様への貢献に寄与している | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|--------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|--|--------------------|------------|-----------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 創価大学 | 近隣の防犯パトロール | 学生のボランティア活動である「学生防犯パトロール隊」に対して、パトロールに必要な備品等の支援。また適時に図書券等の激励をしている。また災害時支援ボランティアとして活動する学生にも図書券等の激励を考えている。 | | | | | | | | | | | | 各クラブ団体、寮生、希望する一般学生 | 7・12月 | 総務部・学生部 | 4 | 不審者の早期発見、近隣住民や地域への貢献 |
| 東洋英和女学院大学 | 学生自治会の中に実行委員会として「英和サポートネット」を設立 | 4つあるボランティア団体の協働活動・情報共有化支援、ボランティア情報の収集・提供、ノートテイク講習会を実施しノートテイクを養成・派遣 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | | 英和サポートネット、手話部、ESPOIR、イーハトーブ、英和シグマソサエティ | 通年 | 学生課 | 4 | ・ノートテイク講習会を開催し、聴覚障害学生に対するノートテイクを実施している。学生、大学側とも障害者に対する情報保障の重要性が高まった。・学生のボランティア実行委員会が立ち上がったことにより、大学との連携でボランティアセンター設立が視野に入ってきた。 |
| 東京富士大学 | | | × | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | | 昼間主学友会(1・2・3・4年) 夜間主学友会(1・2・3・4年) | 4・3月 | 学生支援課 | 3 | ボランティア活動を支援することで、学生自らボランティア活動の場を探し参加している。 |
| 聖母大学 | | 身体障害者の訪問ボランティアを長年に亘って先輩から後輩に申し送って実践している。学生会活動、クラブ活動全体に対して大学から補助金を出している。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | | インターナショナルボランティアクラブ(全学)、「てっちゃん」ボランティア(全学) | 通年 | 学生課 | 5 | 学生の関心がたかまる。障害者に対する認識がふかまる。奉仕の精神が目覚める。 |
| 東京聖栄大学 | 葛飾区立学校学生ボランティア | 地元葛飾区教育委員会からの依頼によるボランティア協力 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | | 葛飾区立幼稚園、小学校(養護学校を含む)及び中学校 | 随時 | 生活指導課 | | |
| 東京聖栄大学 | 東京消防庁「災害時支援ボランティア」 | 地震災害に対して、東京消防庁とボランティアが連携して災害防除活動等にあたる。 | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | | | 「震度6弱」以上の地震が発生した場合 | 生活指導課 | | |
| 中京女子大学 | 人形劇「あおぞら」 | 人形劇サークル幼稚園、保育園、子ども会等で人形劇を講演する。学外から指導者を招いて、指導者への謝礼を大学が負担する。 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | | 幼稚園児、小学生低学年 | 8・9・12・2・3月 | 児童学科 | 15 | 子供達とのふれあいにより、招来、保育士、幼稚園教員、小学校教員になった時の良い経験になる。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|---------|---|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|---|-----------------------------|-------------|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 名古屋商科大 | 国際ボランティア活動 | 海外におけるボランティア活動を積極的に支援している。学生から計画書を提出させ、内容、安全等を確認した上渡航費を支給している。 | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | ○ | × | | 特に限定しない | 7・8・9月 | 教学部門 | 3 | 実際の英語力の向上、国際的な視野の拡大、積極的な行動力など。 |
| 日本福祉大学 | 日本福祉大学障害学生支援センター | 1. 障害学生の生活上の具体的な困難への支援・援助。 2. 障害学生支援に携わるサポート学生の募集・養成及び派遣のコーディネート。 3. バリアフリーに向けた施設・設備の点検と整備改善。 4. 地域や関係団体との連携、他大学、諸機関との情報交換、経験交流の推進等。 | × | × | × | × | ○ | ○ | × | × | ○ | 障害学生支援 | 在学生 | 通年 | 学生生活センター事務室 | 4 | ・障害学生のためにでなく、障害学生とともにを基本として各ボランティアサークルが設立 ・点訳サークル ・音訳サークル ・字幕付きサークル ・ボランティア情報 ・視覚障害学生サークル ・聴覚障害学生サークル ・学内障害者の勉学発展させる会 ・パソコンテイクサークル |
| 中部大学 | Clean Up Project in Chubu Univ. (中部大学クリーンアッププロジェクト) | 財政支援(消耗品等の一部)、活動場所の提供 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | | Clean Up Project in Chubu Univ. (中部大学クリーンアッププロジェクト) | 6・12月 | 学生部学生課 | 1 | 学生のゴミのマナーに対する意識の向上の一助となった |
| 中部大学 | 中部大学NPOセンター | 財政支援(消耗品等の一部)、活動場所の提供 | × | × | × | × | × | ○ | ○ | × | | | 中部大学NPOセンター | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 学生部学生課 | 1 | 地域との交流・連携の一助となっている。 |
| 名古屋大学 | ボランティアセンター | 団体に対し財政支援を行っている | ○ | ○ | × | ○ | ○ | × | × | × | ○ | まちづくり | ボランティアセンター | 通年 | 総務課 | 4 | ・学生に社会公益的な活動への参加や地域社会との交流を促し、社会の担い手としての視点を育み、学ぶ喜びを体感させている ・地域との連携・活性化に繋がっている |
| 名古屋女子大学 | クリーンアップ学生ボランティア | 学生にボランティアを体験させる ・学生支援センターにおいて、ボランティア事業(キャンパス内外の清掃)を企画し、参加者をグループ単位で募集する。 ・参加者には大学名入りジャンパー・軍手・ゴミ袋等を貸与する。 ・活動については、各グループの都合に合わせて適宜実施する。 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | | 全学生 | 4・5・6・7・10・11・12・1月 | 学生支援センター | 6 | 学生がボランティアに興味を示し、窓口にボランティア活動に関する情報提供を求めてくるようになった。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|--------|-----------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|-------------------------|------------|------------------|---|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 金沢医科大学 | 金澤タぐれ祭りにおける禁煙啓発活動 | 財政支援、保健師の強力、機器の貸与 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 不特定 | 不定期 | 学生支援センター、 教学課 | 1 | 展示内容の充実、展示ブースの増設 |
| 金沢医科大学 | 人体の不思議展への出展 | 財政支援 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 不特定 | 不定期 | 金沢医科大学病院 | 1 | 展示内容の充実 |
| 常葉大学 | | 教師を目指して入学してきた学生に、教師への憧れ・魅力を早い段階から抱かせるために地元の小・中学校の協力(要望)を経て放課後ティーチャーのボランティア活動を支援する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 教員希望の学生 | 通年 | 常葉学園大学 学生部 | 16 | 教育実習以外での早期教育体験は児童理解を深め実践的な指導力を養成するうえで大きな成果を挙げている。 |
| 鈴鹿国際大学 | グローバルスタディー | 多文化共生社会実現を目的に留学生、日本人を教育機関へボランティア派遣する事業 | × | ○ | × | × | × | × | ○ | ○ | × | × | × | 県内教育機関(小・中・高)、その他国際交流団体 | 毎年4月～12月 | 国際交流センター | 1 | ・地域との交流 ・異文化理解の向上 |
| 桜花学園大学 | 全日本盲導犬使用者の会交流会 シーンボイスガイド in 愛・地球博 | 全日本盲導犬使用者の会より、シーンボイスガイドボランティア参加を依頼され、2005年5月29日の全国使用者の交流会に、人間関係学科1～4年生が参加した。主に、福祉概論受講生、人間関係基礎演習Ⅱ受講生、専門演習Ⅰ・Ⅱ(3～4年生)受講生の計70名が参加した。当日が日曜日であったため、人間関係基礎演習は後日振替休講を行った。ボランティア参加者の交通費、愛・地球博入場券は全日本盲導犬使用者の会より給付された。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | × | × | 人間関係学科1～4年生 | 2005年5月29日(日) | 人間関係学科 | 4 | 大学祭にて、事後学習報告会を開催し、事後の学びを整理した。参加学生はボランティア活動に関心を持つようになり、各人で様々な社会福祉施設にてボランティア活動を行っている。 | |
| 仁愛大学 | クリーンアップ大作戦 | ボランティアに対する財政支援(大学のバス、清掃用具の提供) | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 全学生 | 6月下旬 | 学生生活課 | 2 | 市民と一体になり協働することで、人間関係の再生が行われた。また、自分たちの大学や地域を愛し誇りを持ち、よりよい生活環境を作り出す意識の高まりがあった。 |
| 大谷大学 | ノートテイクなど障害学生支援 | 大学主催のノートテイクなどの障害学生支援の有償ボランティアを、学生対象でおこなっている。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 全学生 | 授業のある期間。 | 学生支援部 学生課、教務部 | 4 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担 当者数 | 支援したことによる 効果 |
|-------|---|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------------------------|--------------|------------------|------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 大谷大学 | ボランティア掲示板 | 各施設、団体から寄せられたボランティア募集のポスター・チラシなどをボランティア掲示板に掲示する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | 全学生 | 特に時期は定めていない。 | 学生支援部学生課 | 2 | |
| 同志社大学 | 障がい学生支援制度 | 障がい学生の学生生活上の支援を行なう学生ボランティア派遣のコーディネーター。ボランティアスタッフは、ビデオ字幕付け・ガイドヘルプ・朗読・テキストファイル文字校正・代筆・車椅子介助等を担当する。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 本学在生 | 通年 | 学生支援センター | 2 | 障がいをもった学生と共に学ぶことで、学生同士の「他者への関わり」に対する意識が高まる。「学生が学生を巻き込む」仕掛けを設けることで、支えられる側の学生はもちろんのこと、支える側の学生に対する教育的効果が期待できる。 |
| 同志社大学 | 学校ボランティア ①「学生ボランティア」学校サポート事業 ②学生パワー活用事業(京都府山城教育局) | ①「学生ボランティア」学校サポート事業は、京都市教育委員会が「大学のまち・京都」の特性を活かし、各大学との連携のもと、大学生を市立小・中・高等学校・幼稚園に派遣し、授業及び部活動の指導補助等を行い、一人一人の子どもに対するきめ細かな指導を充実させるプログラムで、2003年度から実施。本学も京都市教育委員会と提携を結んでおり、学部を問わず、多くの学生がこの活動に参加。 ②学生パワー活用事業は、児童生徒への個に応じたきめ細かな支援を行い、学力の充実・向上を図るために、授業または放課後において、学習支援・体験活動、クラブ活動等の支援、放課後等の補充学習支援等を、大学生のパワーを駆使して行ってもらうというもので、京都市教育委員会が主管となって2005年度から開始。 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | 本学在生 | 通年 | 学生支援センター | 3 | 教職を目指す学生や高い専門的知識・技能を持った学生を学校に派遣し、各教科や部活動の指導補助など学校が必要とする教育活動の支援を行うことにより、一人一人の子どもに対するきめ細かな指導の充実を初め、教育活動の一層の活性化を図る。学生にとっては教育現場の最前線を体験できる貴重な機会であり、卒業後の進路について具体的に考えるきっかけとなる。また、学校における教育活動の体験を通して、自己の資質の向上を図る機会とする。 |
| 立命館大学 | | ボランティアセンターを設置し、ボランティアプログラムの開発と運営管理、情報収集と広報活動、調査および研究を行っている。ボランティアに関する情報提供、学習会、研修会、シンポジウム、交流イベント等さまざまな企画を通して支援を行っている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 特に限定していない | 通年 | ボランティアセンター | 3 | ボランティア活動の経験が学生の豊かな個性を育み、大学で学ぶ専門知識の応用的な理解につながることを企図している。 |
| 龍谷大学 | | ボランティア活動のための交通費補助 ボランティア活動先の開発 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 主にボランティア・NPO活動センター学生スタッフ | 通年 | ボランティア・NPO活動センター | 4 | ボランティア活動が活発化した、 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|--------|----------------------------------|--|----------------|-----------------------|-------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---------------------------|---------|--------------------|----------------------------------|--|--|------------|---|---|
| | | | 医療 福祉 | 社会 教育・ 生涯学 習 | 学術・ 文化・ 芸術・ スポー ツ | 環 境問 題 | 災 害救 助 | 地 域安 全 | 人 権平 和 | 国 際協 力・ 国際 交流 | そ の他 | そ の他 の詳 細 | | | | | | |
| 大阪工業大学 | 小・中・高校の情報教育授業ボランティアアシスタント派遣プログラム | ①ボランティア活動先の紹介 ②大学から派遣先までの交通費相当額を援助 | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 情報教育授業のボランティアアシスタント派遣プログラムの参加学生※全情報科学部・大学院生が参加可能 | 5・6・7・8・9・10・11・12月頃の間で派遣先学校との打ち合わせにより決定 | 情報科学部事務室 | 2 | ①派遣学生が高等教育機関で学んだ成果を派遣先に還元することにより、派遣先の情報教育授業運営において一助となった。 ②派遣先の生徒をアシスタントという形で指導することで、派遣学生のプレゼンテーション能力の向上に繋がった。 ③教職を目指す派遣学生にとっては、教育現場を実体験できる機会を多く与えることができた。 |
| 関西大学 | 関西大学文化・学術活動等奨励金制度 | 「学術・文化奨励金」制度を設け、学生の課外活動や自主活動において優れた成績を残した学生を奨励している。この制度は文化、学術、福祉、ボランティア活動等において優れた業績をあげ、又は企画を有する個人又は団体を支援し、表彰することにより、本学の学生文化の向上に資することを目的としたものです。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 個人および団体 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12月 | 学生センター学生生活課 | 1 | 平成17年度が初年度であり、次年度以降に効果があらわれることを期待している。 | |
| 関西大学 | ボランティアサークル交流会(活動報告会) | ボランティア団体がお互いの活動を報告しあい、交流をはかることを援助することにより、ボランティア団体をエンパワーメントしている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 関西大学の学生のみが所属運営しているボランティアサークル | 年に数回 | 学生センターボランティアセンター事務室 | 1 | ○これまで、団体内の狭い視野で活動をしてきたものが、他団体の活動報告を受け、お互いに刺激を与え合って、より活動内容が深まる。 ○それぞれの活動内容や知識が他者からどのように見えるのか等を知ることによってボランティア活動の質がより深まる。といった感想を参加者が持ちました。ボランティア団体をエンパワーメントすることができたのではないかと思います。 | |
| 桃山学院大学 | 桃山学院大学ボランティアビューロー 学生ボランティア活動相談 | ・学生のボランティア活動に関する個別相談、及び、活動先を紹介するコーディネート ・ボランティア情報、イベント情報等の情報掲示板の運営 ・学生ボランティア活動促進のための各種講演会、セミナーの開催等 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 全学年対象 | 年間を通して(個別相談に関しては12時30分～18時まで) | 桃山学院大学ボランティアビューロー | 3 | ボランティア活動個別相談や、各種ボランティア募集情報を掲示することにより、積極的にボランティア活動に参加し、その後、継続的にボランティア活動に参加する学生が増えた。 また、学内のボランティア系サークル・団体を対象にしたボランティア組織運営のためのセミナーを年2回、継続して実施したことにより、各団体の活動がよりいっそう活発化した。 | |
| 関西学院大学 | 国連ボランティア実習(UNITES Volunteers) | 国連ボランティア計画(UNV)と協定を結び、国連が開発途上国と先進国とのデジタルデバイド(情報格差)を解消するために展開している国連情報技術サービス(UNITES)に学部生・大学院生をボランティアとして派遣する。活動に従事し、所定の課程を修めた学生は最大16単位を取得できる。また、派遣される学生には「国連情報技術サービス(UNITES)ボランティア奨学金(30万円)」が支給される。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | × | 本学学部2年生以上または大学院生で、派遣時に20歳以上であること | 派遣期間は、春学期又は秋学期の1学期間(いずれも最低約5ヶ月間) | 国際教育・協力センター | | 参加学生に対し、ボランティア派遣前には事前研修、派遣後には報告会をさせている。ボランティアに従事した学生の成長はめざましく、報告会での発表等ではっきりと見て取れる。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特になければ空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|---------|--------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----------|--|-----------------------|--------------------|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 甲南大学 | | 新潟県中越地震復興ボランティアに21名が参加した。また、災害発生時に募金活動(パキスタン地震、新潟県中越地震)を行っている。児童福祉研究会については、文化会に所属し、継続的に活動している。 | × | × | × | × | ○ | × | × | × | ○ | 児童福祉 | 災害時一時的に集まった団体・児童福祉研究会 | 学生部 | 1 | |
| 天理大学 | 国際参加プロジェクト学校支援学生ボランティア事業 | ○学生ボランティア団体への財政支援 ○国際ボランティア活動実践の単位認定 ○地域教育現場支援活動の単位認定 | × | × | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | ○ボランティアサークル ○成人会 ○よふぼく会 | 特になし | ○学生部 ○教育支援部 ○教務部 | 2 | 自治体等と正式に協定を結び、単位認定することで学生が参加しやすい状況となった |
| 追手門学院大学 | 「安威の杜(あいのもり)」(ボランティアバンク) | ボランティア活動に関する情報の収集と周知およびコーディネートすることを目的として次のことを行っている。 ①学生ボランティアの活動先募集(情報収集)②学内でのボランティア活動に関する広報活動、③ボランティア希望学生の募集と活動先(ジャンル)別個人登録、④活動先と希望学生とのコーディネート、⑤保険の手続き、⑥ボランティア活動サークル等の支援、⑦ボランティアネットワークの形成と維持 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 全学生対象。経済的支援としては本学の公認課外活動団体へ活動費として援助している。 | 通年をとおして実施。 | 学生課、企画課リエゾンオフィス | 6 | ①学生にとっては、ボランティア活動を通して、新しい発見があり、自分に何ができるのか見つめなおすよい機会となっているようだ。 ②本学と茨木市および茨木商工会議所との間で「茨木市地域活性化を目指した産官学連携基本協定書」を締結している。産業・教育・文化・芸術・スポーツ等の分野において、この連携が地域の発展につながり成果を上げている。 |
| 帝塚山学院大学 | 文化ボランティア活動 | 地域福祉施設などにおいて、紙芝居の上演を教員と学生が行なっている。 | | | | | | | | | | 地域福祉施設 | 随時 | | 1 | 地域福祉施設の活性化につながっている。 |
| 神戸学院大学 | 学生ボランティアへの活動補助制度 | ・「学生団体によるボランティア活動」と「一般学生(3名以上)の活動」に分け、活動の経費を助成する。 ・2006年度をスタート目標に現在、制度の検討中 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 特に分野は問わない | 学生団体、一般学生 | 4・3月 | 課外活動課(ボランティア活動支援室) | 2 | ・まだ準備段階につき効果は出ていない。 ・期待する効果としては、本学によるボランティア活動の活性化、ボランティア団体の育成など。 ・また助成金の扱いの指導を通して、計画性、お金の管理(会計)についての学びの機会としたい。 |
| 甲子園大学 | Triple Heart | 大学より部費として 3万円 | | | | | | | | | | 栄養学部1～3回生 | 通年 | 甲子園大学栄養学部 | 60 | 活動をすることにより喜んでもらった |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|----------|----------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|---|--------------|--------------|------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 大阪経済法科大学 | 国際ボランティア活動 | 本学海外協定校である崇実大(韓国)、モンゴル国立大、企業などと協力し、モンゴルにおける学校建設、文房具提供などを目的とした学生代表団を組織し、派遣。派遣の際には、学生参加料(4万円)以外はすべて大学から支援。 | × | ○ | × | × | × | × | × | ○ | × | 学生 | 8・9月 | 国際部 | 6 | ・参加した学生の国際貢献意識の向上。 ・派遣国のみならず、アジア地域全体に対する関心の高まり。 ・協定校との学生交流促進。 ・大学への感謝、愛着の深まり。 ※2000-2002年度開催。「国際ボランティア奨励事業」へ引き継ぐ。 |
| 大阪経済法科大学 | 国際ボランティア奨励事業 | 学生が「国際ボランティア」として海外での活動に参加する場合に要する費用の半額分を奨励金として補助する。(但し、1名につき、上限15万円) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 学生 | 随時 | 国際部 | 6 | 2004年度から開始。 ・2004年に応募2件名あったが、内容が「ボランティア」とは認められなかったため、不採用。 ・2005年度は応募0(12/16現在) |
| 大阪経済法科大学 | 留学生と近隣小中学校生の交流会 | 近隣小中学校からの要請に基づき、留学生を派遣(小中学生の訪問を受け入れる場合もあり)。その際の交通費、食費などを支援。 | × | × | × | × | × | ○ | × | ○ | × | 学生(留学生) | 随時 | 国際部 | 6 | ・派遣、受入を行った小中学校からは概ね好評。 ・留学生にとっては、地域密着の国際交流となり、貴重な体験となっている。 ・留学生の日本教育、国際教育としても効果 |
| 大阪経済法科大学 | ノートテイクサポート | ノートテイクサポートは、所定の講習を受け登録した場合には、有償になる。1コマ90分(1200円)、時給800円。 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 学生 | 4・7・10・1月 | 教務課バリアフリールーム | 1 | 聴覚障害学生の講義参加意識が向上し、修学する。 |
| 近畿福祉大学 | 近畿福祉大学ボランティア活動支援センター | 大学教育の一環として、学生の主体性を最大限に尊重しながら、様々な分野でのボランティア活動を支援、育成し、ボランティア活動実践の輪を広げるとともに、ボランティア活動を学術研究の対象として、その在り方などについての研究を深め、その成果を発表することを通じて、地域・社会に貢献することを目的とする。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | 学部生・教職員 | 通年 | 学生部 | | 支援センター開設が今年度のため具体的な効果はわかりにくいですが、学生の中からボランティア支援に関する研修会等に参加しているという報告がなされている。 |
| 徳山大学 | | ボランティア団体に対する財政支援。 | ○ | × | × | ○ | × | × | × | ○ | × | ワンステップ。環境マネジメント研究会 | 8・9月 | 学生支援室 | 5 | 社会性が身につくような面で積極性が出てきた。 |
| 福山大学 | | | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | YRC同好会・管弦楽団・吹奏楽部・三蔵太鼓を打つ会・ダンス部チアリーディングコース | 5・8・9・10・12月 | 学務部学生課 | | 地域の活性化 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|-----------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|-------------------|---------------------------------------|------------------------------------|-----------------------|-----------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 吉備国際大学 | | ボランティアセンターの規定として、より地域に密着した特色あるボランティア活動実施するため「ボランティア活動の研究・実践を通じて、地域貢献と国際貢献に寄与する」ことを目的としている。センターの重点活動を「災害復興支援」、「地域貢献」、「国際貢献」、「障害学生支援」と規定し、社会貢献活動の一層の強化を図っている。 | | | | | | | | | | | | 全学年 | 年中 | ボランティアセンター | | 活動を通じて、参加学生はボランティアについての学習し、社会人としての常識を身につける等、さまざまな成長が認められる。一方、ボランティアを受け入れた施設は単にマンパワー不足を補うため目的からボランティアの影響を感じ始めている。 |
| 呉大学 | 全盲学生の体育実技における補助ボランティア学生に対する1部SA対応 | ボランティア学生への財政支援 | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 4年次生のボランティア学生 | 全盲学生が受講する時期(4・5・6・7・10・11・12・1・2月) | ボランティアセンター、学生部 | 1 | ボランティア学生への財政援助によりスポーツウエア・シューズの購入や交通費等の自己負担を軽減している。 |
| 広島国際大学 | | 一部の学科では授業の一環とし、単位を認定している | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 医療福祉学科、言語・コミュニケーション学科 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 授業であるため、担当部署、人数等は記入不明 | | 向学精神の開発 |
| 日本赤十字看護大学 | 赤十字事業への積極的参加 | 各種赤十字活動への積極的参加呼びかけ(赤十字広報活動への参加、献血、病院への慰問など) | ○ | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 全学年 | 年間を通じて | 学生課 | 4 | 赤十字の原則に基づき、人道的な活動を推進している。 |
| 中国学園大学 | | | × | × | × | × | × | × | × | × | ○ | ○ | 小学校低学年への給食時補助及び食育 | 岡山市立吉備小学校(1・2・3学年)・岡山市立陵南小学校(1・2・3学年) | 4・5・6・7・9・10・11・12・1・2・3月 | 現代生活学部 | 3 | 管理栄養士を目標としている学生の学童期における食に対する意識涵養 |
| 四国大学 | | 新たなボランティア活動先の開発 ボランティア団体に対する財政支援 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | × | × | 全学生 | 年間を通じて | 学生課・ボランティア推進室 | 7 | ボランティアに参加する学生数の増加 |
| 徳島文理大学 | | ・情報提供 ・事前指導 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | ボランティア同好会 | 通年 | 学生部 | 1 | ボランティア活動の継続 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|---------------------|--|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|-------------------------|---------|----------------|----------------------------|--|---------|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 学カ 力タ リナ 大 | 松山市内4大 学ボランティア ネットワーク「4 リングス」 | 松山市内4大学の大学生による地方の活性化。 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 松山市内の街 づくり | 松山市内4大学 | 「平成16年9月 ～」 | カタリナ ボランティ アセン ター | 8 | 松山市の活性化 |
| 西南 学院 大学 | ボランティア活 動支援室 | 1. 利用対象: 本学学生および卒業生、教職員 2. 場所: ボランティア活動支援室 3. 支援内容 ①ボランティア募集情報の掲示、②ボランティア関連書籍、 資料の閲覧及び貸し出し③ボランティアグループとの懇談 会、④ボランティア入門講座(オリエンテーション、計5回開 催)⑤ボランティア講演会、⑥海外ワークキャンプ、⑦ボラン ティア活動のための印刷機、紙折り機使用の許可、⑧ボラン ティアガイドブック作成、⑨その他ボランティア啓発活動 * 利用できる団体は学生課でボランティア団体として登録さ れた団体、又はボランティアセンター設置準備委員会で承 認された団体 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 学内ボランティア団体 (一部学外を含む) | 年中 | 宗教部事 務室 | 1 | ①学内ボランティア団体の横の繋がりが可 能となった。 ②ボランティア講座の際に講座担当が可能 になった。 ③ボランティア講演会についても学生団体 からの支援が可能となった。 ④災害等に伴う募金活動に学生ボラン ティア団体に加盟している学生からの協力が可 能となった。 ⑤ボランティアガイドブックの作成に対し、学 生からの情報提供、提案、意見を反映した 冊子作成の取り組みが可能になった。 ⑥学生ボランティア団体と事務局との情報 交換がよりスムーズにいくようになった。 | |
| 福 岡 大 学 | 城南区ウォー キング大会 | 「福岡市城南区健康づくり推進協議会」のウォーキング大 会の運営に関するボランティア要請により福岡大学学生20 名が参加した。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | | 学内のボランティア サークル | | 厚生課 | 7 | 厚生課が、紹介しているボランティア活動に 積極的に参加している。 | |
| 業福 岡大 学工 | セーフティーパ トロール隊 | 夜間の地域巡回 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | | 地域支援 | 毎月1回 | 学生部学 生課 | 2 | 地域犯罪の減少 | |
| 業福 岡大 学工 | 学生サポー ター | 幼稚園、小・中学校等の施設での教育補助 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | | 幼稚園、小・中学校等 の施設 | 年間 | 学生部学 生課 | 2 | 派遣先の子供たちが夢や希望を見出し、ま た、学生の皆さんも、さまざまな体験を通し て、自らのものの見方や考え方を広げていく | |
| 業福 岡大 学工 | キャンパスク リーン | キャンパス内及び周辺地域の清掃 | × | ○ | × | ○ | × | ○ | × | × | × | | 地域住民 | 毎月1回 | 学生部学 生課 | 3 | 環境美化に対する啓蒙 | |
| 業福 岡大 学工 | | 老人介護福祉施設での介護補助 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | | 老人介護施設 | 年間 | 学生部学 生課 | 1 | 介護福祉に関する知識向上 | |
| 業福 岡大 学工 | | 海開き前の海岸清掃 | × | × | × | ○ | × | ○ | × | × | × | | 地域の海岸 | 6月 | 学生部学 生課 | 1 | 環境美化に対する啓蒙 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|---------|--------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|--|---------------|----------------------|-----------------------|--------------------------------------|-------------------|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 東和大学 | 祭り大橋 | 1. ボランティアのための情報提示 2. ボランティア学生の食事支給 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 地域団体及び小中学校 | 10月及び任意 | 副学長、学生委員会、ボランティアクラブ顧問 | 12 | 1. 地域の信頼関係が築けてきた。 |
| 西日本工業大学 | | ・地域との調整と防犯パトロールへの同行。 ・道具の貸し出し | × | × | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | ・シグマソサエティー：学部生の1～4回生 ・西工大ニコニコ隊：学友会を中心に委員会・サークルのメンバーで実施(1～4回生) | 随時 | 学生課 | 6 | 地域とボランティア団体との連携が密になった。 | |
| 日本文理大学 | 防犯パトロール隊 | 学生課職員も同行し、夜間パトロールを行う。 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | 全学年 | 通年 | 大学教育サービスセンター 学生支援 | 4 | 他大学や地域との交流を持つことが出来、また地域貢献にもつながっている。 | |
| 日本文理大学 | Σソサエティ | 国際ソロプチミストΣソサエティという団体に所属し、助成金を毎年いただき、大会や研修に参加をしています。 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | 全学年 | 通年 | 大学教育サービスセンター 学生支援 | 4 | 他大学や地域との交流を持つことが出来、また地域貢献にもつながっている。 | |
| 西九州大学 | | 情報提供及び取りまとめ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | ○ | × | 社会福祉学科及び健康栄養学科 | 通年 | 社会福祉総合研究室、学生課 | 7 | 意欲、意識付け。Vo. 依頼先の安心感・安定感。進路に対するの動機付け。 | |
| 第一工業大学 | ボランティア保険の加入 | | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | 防犯パトロール「舞鶴隊」 | 年間 | 学生課 | 30 | 地域の防犯意識高揚 | |
| 九州学院大学 | ボランティア体験学習(講義) | 選択科目として設定(単位認定)施設との連絡協議会を設置し連絡調整 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 学生 | 8・9・10・11・12月 | ボランティア推進委員会 | 5 | ・自己覚知 ・自己肯定感の向上 ・他者理解 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | |
|--------------|--------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-------|--|---|-----------------------|--|----------------------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 九州保健福祉大学 | 九州保健福祉大学ボランティアセンター | ボランティア活動を希望する学生の登録。大学に依頼があったボランティア情報の提供。 | × | × | × | ○ | ○ | ○ | × | × | × | | | | | | |
| 太平洋大学 | 立命館アジア太平洋大学 | 学生ボランティア団体の活動への経済的援助(交通費、宿泊費の一部補助) | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | PRENG、サンピッコロ、愛の波、天下、いろは | 年間 | スチューデントアクティビティーズ・オフィス | 2 | 愛知万博での発表を初め、社会的に高い評価を得ている。 | |
| 岩手県立大学 | ラーニング・サポーター・プロジェクト | 役場の教育委員会と協定を結び、小中学校で活動する場を設ける(有償) | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学生 | 年間を通して | 教育・学生支援室 学生支援グループ | 1 | 教職課程を目指す学生等の経験として活かされる | |
| 大分県立芸術文化短期大学 | 地域社会特講 | 地域で活躍されている人々や団体を招いて、講演をお願いしている。ただ話を聞くだけではなく、講演を通じて様々な地域活動への参加を促している。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | まちづくり | 年間 | 情報コミュニケーション学科 | 2 | ほぼ1年を通して活動に参加している。・リバーフェスタin大分川(5月)・サエモン23(「二十三日祭歩行者天国」のメインイベント(踊り)(7月))・たなばたブロードウェイ(8月)・上野の森アートフェスティバル(11月)など | | |
| 帯広大学 | | ・ボランティア情報の学生への伝達ルートの整備 ・教員による学生への個別の指導・アドバイス | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | 全団体、全学年 | 適時 | 学生課 | 3 | ・意識の向上 ・正課教育への積極性誘発 | |
| 札幌大谷大学 | | 自治会公認団体として、決められた回数の公欠席を認める。クラブとして活動している団体に、自治会公認団体として部費の支給のみ。 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 人形劇希望の地域保育園、児童会館、町役場へのデリバリー。ボランティアクラブが年数回社会福祉施設訪問。音楽療法で施設訪問。 | シグマソサエアティ(ボランティア)、アニマート(音楽療法)、コロポックル(人形劇) | 授業時間を除く 通年 | 学生部委員会、事務局学生課 | 8 | ボランティア活動が単位として認められる制度が無く、また公欠席回数など制約が多くあまり効果は期待できない。自治会支援も部費は多くなく、学校からのボランティア活動への援助を望む。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | |
|----------|--------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|---|-------------------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 |
| 札幌大谷短期大学 | | 介護体験受け入れ施設、学校他からボランティア依頼があり、学内で募集し派遣している。ほとんど休日等であり公欠席等の支援はしない。財政的な支援なし。 また、市内の養護学校から「短大を見学する」という社会見学授業として受け入れ依頼があり、2年続けて受け入れた。1年目は、「音楽療法」クラブの学生が記念ホールで演奏し、演奏終了後間近で養護学校生徒が楽器音の振動を体験し、介護者の介護で楽器に触れ、大変楽しんでもらった。養護学校生徒も初めての体験らしく、表情生が生き生きとしていた。授業時間中のためこの時間だけは特別に公欠席を認めてもらった。その後「人形劇クラブ」が人形劇を公演し見てもらった。2年目は学生部委員・専任講師の「社会福祉」の授業時間を充ててもらい、保育科学生が実際に話し相手、遊び相手になり時間をすごした。 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | | 学生部 学生委員、 事務局 学生課 | 8 | ボランティア活動が単位として認められる制度が無く、また制約が多くあまり効果は期待できない。学校からのボランティア活動への援助を望む。 |
| 小樽短期大学 | オフキャンパス アクティビティ | 単位認定 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | 全学生 | 4・5・6・7・8・9・ 10・11・12・1・ 2・3月 | 学生課 教務課 総務課 | 3 | ボランティア精神の定着。社会への貢献意識の定着 | |
| 聖霊女子短期大学 | 体験学習Ⅰ、 Ⅱ | 授業として、外部の施設でボランティア活動をさせる。担当教員が事前説明をし、毎回引率する。単位を認定。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | 1. 2年生 | 4・5・6・7・8・9・ 10・11・12・1・ 2月 | 学生部、 社会福祉 委員会、 ボランティ アサークル 顧問、 宗教委員 会、体験 授業担当 教員 | 15 | 学生が安心して参加するようになった。受入側の印象や評価がよかった。学生が気づかないことをサポートできた。人間的成長が確認できる。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | | |
|----------|----------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|------------------|-------------------|------------|------------|-----------------|--|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 | |
| 桜の聖母短期大学 | サークル活動支援① 釜が崎におけるボランティア活動への支援 | [ボランティア活動内容] 1)生活用品(毛布等)の収集および寄贈 2)釜が崎でのボランティア活動 ①炊き出し ②夜間パトロール ③チャリティーバザーの手伝い ④学童保育の手伝い ⑤寄付された物資の整理 ⑥野宿労働者の入院手伝い [支援の概要] 1. 釜が崎での宿泊先確保および活動内容の連絡調整 2. 学生の健康および安全確保のために教員の同行 3. 外部団体(ロータリークラブ)からの活動援助を受けるための推薦依頼 4. 旅費、滞在費用の支援 | ○ | ○ | × | ○ | × | ○ | ○ | × | × | ミリアムロータリークラブ(全学年) | 12月 | 学生部 | 1 | ボランティアを通して、社会的問題を考える。 | |
| 桜の聖母短期大学 | サークル支援② フェアトレード商品の委託販売 | [活動内容] ・フェアトレードの紹介 ・大学祭でのフェアトレード商品の委託販売 [支援の概要] ・販売協力 ・外部団体(国際ソロプチミスト福島)からの活動援助を受けるための推薦依頼 | ○ | × | × | ○ | × | × | × | ○ | ○ | 地域社会 | からし種サークル | 10月 | 学生部 | 1 | ・大学祭の一般公開日に合わせての活動を通し、学生全般および学外の一般の人たちへのフェアトレードの紹介や支援の輪を広げる機会となった。 ・フェアトレードの目的に賛同し、学生自身も買うことで生産者の援助をしていく事を自覚する。 |
| 桜の聖母短期大学 | サークルにおけるボランティア活動支援③ | [活動内容] ・マリアンコラール……病院(小児病棟)への歌声慰問 ・ファンクワイアー……病院や福祉施設への歌声慰問 [支援の概要] ・新たなボランティア活動先の紹介 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 合唱系サークル(全学年) | 7・12月 | 学生部 | 1 | ・地域社会における交流を通し、共に生きる教育を実感させる。 ・自分たちの持っている力を合わせることで、大きな活動へと結びつくことを体験する。 ・練習の成果を発表する機会の拡大を通して、活動を活性化させる。 | |
| 桜の聖母短期大学 | 福祉学(ボランティアワーク) | [科目内容] ・30時間のボランティア活動 ・レポートによる評価(ボランティア活動自己評価表、ボランティア日誌、ボランティア活動レポート) ・活動先は自主的に選択 [支援の概要] 1. ボランティア活動の単位化 2. ボランティア活動のための基礎知識および実施に向けての事前研修(講義) 3. ボランティア活動先の開発および担当教員の配置 4. ボランティアセンターの開設(運営は学生ボランティア)(ボランティア情報の交換、ボランティア活動先リストの検索等) | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | 1年生全員対象(必修) | 通年 | 学務部 | 3 | ・2単位必修 ・地域でのボランティア活動体験を通して自己を見つめ、多くの社会問題に気づき、新しい協同帯社会を創造する力を養う。 ・本学学生としての自覚と責任の涵養。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|-----------|------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|------------------|---------------------|------------------|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 桜の聖母短期大学 | 国際ボランティア | [科目内容] ・タイ(山岳地域)での生活体験学習 ・レポートおよび参加報告会での発表 [支援の概要] 1. ボランティア活動(体験学習)の単位化 2. ボランティア活動のための基礎知識および実施に向けての事前研修 3. ボランティア活動先との連絡調整 4. 学生の健康および安全確保のための教員の同行 5. 報告会の主催 | ○ | ○ | × | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | 1・2年生全員対象 | 通年 | 学務部 | 3 | ・2単位(選択) ・国際的な視野をひろげ、国際的に生きる意味を問い、自らの生き方へ繋げて生ける力を養う。 ・特に、アジアの人々の生き方を共に体験することで、日本人としてのアイデンティティや果たすべき役割を自覚する。 |
| 宮城大誠学真短期 | 献血奉仕及び全国学生献血キャンペーン2005 | 1 学内に献血車を呼び献血協力をする 2 全国一斉に行われる献血運動に賛同し献血を該当で呼びかける。 また、献血協力者に対するプレゼントの配布等。 | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | ○ | × | × | 1年次及び2年次 | 10・12月 | 教務課 | 1 | 1 不足しがちな輸血用血液に対する認識や、人命救助に対する意識の高揚、日ごろの安全に対する意識の醸成など |
| 宮城大誠学真短期 | ハンドベル クリスマス会 | 1 保育園、地域団体の要請に応じて、学生が出向いてハンドベルの演奏をする。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | 2年 | 11・12月 | 教務課 | 1 | 1 地域の住民との直接のふれあいによる、社会的効果及び未来の保育士としての意識醸成 |
| 小田原女子短期大学 | おはなしの部屋 | 1. 知的障害児施設における歌、人形劇等楽しみ提供活動の日程調整 2. 同活動の事前準備 3. 同活動の当日引率(幼児教育学科全教員携わる) 4. 図書館における同様の活動も同じく支援している | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | 幼児教育学科在籍者中の希望者 | 6・7・9・10・11・12・1・2月 | 授業「ボランティア活動」担当教員 | 9 | 1. 社会福祉施設に関する学生の理解が深まり、保育士養成課程における施設実習の導入となっている 2. ボランティア先に教員が引率する事により、施設と学校の連携がスムーズになっている 3. 学生のみでは難しい日程調整を学校側が行うことにより、年間を通じた活動ができる |
| 小田原女子短期大学 | 学習ボランティア活動の支援 | 1. 児童養護施設における学習ボランティア活動に関する施設との連絡調整 2. 学生募集、名簿作り 3. 活動に関する悩みの相談 4. 活動先の開拓 5. 児童養護施設における遊び相手としての活動も別途支援している(内容は同様) | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 幼児教育学科在籍者中の希望者 | 4・5月及び通年 | 授業「ボランティア活動」担当教員 | 2 | 1. 施設との連絡を教員が行うことにより、学生の活動の様子が把握できる 2. 施設と学生の間ニトラアルが発生する前に対応できる 3. 学生の悩みに答えたりアドバイスをすることにより、活動が継続できる 4. 活動による学生の成長を教員が確認できる |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | | |
|------------|-------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|------------------|----------------------|-----------------------|------------------------------|-----------------|---|-----------------------------|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | | |
| 小田原女子短期大学 | 子育て支援センター活動支援 | 1. 活動先の開発 2. 活動方法の指導 3. 活動者の募集・名簿作成 4. センター長との協議 5. 日程調整 6. 現地訪問 7. アドバイス | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 幼児教育学科在籍者中の希望者 | 7・8月 | 授業「ボランティア活動」担当教員 | 1 | 1. 学校と支援センターの情報交換がスムーズに行える 2. 学生の活動促進につながった 3. 学生の活動についてセンターから教員に対する助言が得られ、教育内容に反映できた 4. 学生に教員がアドバイスをすることにより、活動が充実したようであった | |
| 山梨学院短期大学 | 社会体験講座Ⅰ | ボランティア活動先の開発、ボランティア活動上の基本的な指導・助言、ボランティア活動報告の集計管理等 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | 1、2学年 | 年間を通して | 社会体験運営委員会 | 42 | 通常の教育課程では学ぶことができない、社会的諸問題に対して関心を持つようになった。 | |
| 明和学園短期大学 | | | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | | | 学生課 | 4 | | |
| カリタス女子短期大学 | 国際ボランティアinカナダ | 学生は、短期派遣奨学生として参加し、海外派遣に関わる経費の一部を補助してもらえる。また、本学の設立母体であるカナダの修道院に宿泊しながら活動をするので、必要最小限度の実費のみで参加できる。 | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | コミュニケーション文化専攻 | 8・9月 | コミュニケーション文化専攻 | | キリスト教的な愛と奉仕の精神を実践し、弱者に対する温かい心を培う事や、国際的視野を広げ、新たな価値観・世界観を創造させる事を目的としたボランティア活動であるが、参加した学生はこの活動をきっかけにして、人間的に大きく成長していくようである。 | |
| 清和大学短期大学部 | 福祉施設等へのハンドベル演奏の実施 | 毎年クリスマスなどの時期に、福祉施設・保育園等にハンドベルサークルが慈善演奏等を実施しております。短大から交通費又は車両の支援はしている。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | ハンドベルサークル(1・2年) | 7・8・11・12月 | 学生課 | 2 | 地域の、福祉施設・保育園等からは大変喜ばれている。 | |
| 帝京学園短期大学 | 子育て支援センターボランティア | 地域に既存の子育て支援センターに学生を派遣し、保育に携わろうとしている学生に保育体験の場を提供するとともに、地域貢献を目指している。ボランティア活動のある時間帯には大学の講義は実施しておらず、ボランティアにより多くの学生が参加しやすい状況を用意している。 | ○ | × | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | 地域に既存する子育て支援センター(公立) | 4・5・6・7・8・9・10・11・12月 | 子育てサポートチーム ※正式な部署としては存在していない | 2 | 学生の保育ボランティアへの参加意欲が向上した。学生の保育技術の向上が見られた。地域との連携が強化された。 | |
| 三育学院短期大学 | アジアと共に生きる会 | 毎年春休みを利用し、アジア各国に教会建築・小学校建築・地域コミュニティセンター等の建築活動。また、献品・献金等の贈呈。 | × | × | × | × | × | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | キリスト教の伝道・その為に施設建設 | アジア各国の教団から指示される地域の人々 | 3月 | 宗教部 | 3 | 地域社会におけるインパクト・学生が経験によって得る影響 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担 当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|---------------------------|---------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|--|--------------------------------|--------------------------------|---------------------|---|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 三育 大学院 短期 | LIA (Living in Asia) | 看護学科、地域看護専攻科の学生が中心となってアジアの国々を訪問し、その国の医療保険制度や現状を学ぶと共に、国際援助協力団体ADRAと協力して保健衛生に関する教育プログラム、健康調査を行っている。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 小学生、農村住民、(これまでの訪問国、ネパール、ミャンマー) | 3月前半2週間 | 三育学院 短期大学 宗教部 | 2 | 教育プログラムによる訪問地域の保健衛生に関する意識の向上 健康、生活実態調査を実施し、訪問地域における保健医療プロジェクトの企画実行のための資料をADRAに提供 |
| 上智 短期 大学 | 地域の外国籍 市民への学習 支援活動の推 進 | 1. ボランティア活動へのカリキュラム上の対応(関係授業科目の開講、ボランティアと関連付けた自主学習の単位認定) 2. ボランティアへの取組の質的向上の支援(教具作成用PC等の導入、外国語書籍の整備、現地日本語学校の教材調査、ボランティア講座の開講) 3. 地域の新たな要望への対応(学習支援対象市民との支援方針の協議、地域へのアンケートの実施) 4. 協力者ネットワークの構築(卒業生を中心とする支援者へのアンケート実施、協力者対象の研修の実施) 5. 資料のデータベース化 6. 他機関、地域団体へのノウハウ提供 | × | ○ | × | × | × | × | ○ | ○ | × | × | 秦野市内の外国籍市民 | 通年 | 上智短期 大学キャン パス・ミニ ストリー | 3 | 参加学生数、継続率がともに向上している。 また、地域社会、国際社会の枠組みの中でボランティア体験を重ねることを通し、参加学生の知的好奇心が刺激され、総体的な学習意欲の向上もみられる。 | |
| 湘北 短期 大学 | クリーンキャン ペーン | 通学路のごみ拾い | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 学友会福祉委員会 | | 学生課他 | 30 | ごみ問題への意識付けができた | |
| 東海 短期 大学 医療 技 | | 部長教員による指導、支援を行っている。(施設との連絡等) | ○ | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | 大学の付属病院や老人ホーム等において、主に看護に関する(会話や付き添い等)を行っている。 | ボランティア同好会 | 不定期(月に1~2回程度) | 事務室 | 1 | 看護に必要な能力を高め、看護師に向けての自覚を持たせること等。 |
| 育英 短期 大学 | 出前公演 | 出前公演という活動を行っており、幼稚園・保育園・施設・企業・地域団体よりクラブ活動に公演依頼があった場合、ボランティアの一環として参加している。(和太鼓・ダンス・ハワイアン・チャリティー・児童文化等) | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | クラブ | 特になし | 学生課 | 4 | 学校以外でクラブ活動の成果を発表する機会をもつことによって、学生自身がより大きな充実感を味わい、クラブの活性化につながっている。 キャンパス見学会等でもクラブ発表を行っており、高校生が魅力を感じ入学希望につながることも多い。 | |
| 城西 短期 大学 | CJP(クリーン 城西プロジェ クト) | ボランティア団体に対する物的支援。 | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | 全学生団体 | 通年 | 学生課 | 5 | 学内外の清掃により清潔が保たれ、大学近隣の住民にも感謝されている。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-------------|--------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|----------------------|-----------|------------|-----------------------|-----------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 浦和大学短期大学部 | さいたま市『うなぎ祭り』 | イベントの支援活動および参加。 | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | ○ | 地元「さいたま市民」と「大学生」との交流 | 全学部生 | 5月 | 植屋研究室及び学生・就職課内学友会 | 2 | 将来的に若い力による地域の活性化につながる。 地元子供たちとの交流によって子供や地域から喜びを得る。 福祉職としての温かい気持ちや思いやりの心の育成。 支援活動によって授業の実践的教育効果を得る。 |
| 浦和大学短期大学部 | さいたま市緑区『区民祭』 | イベントの支援活動および参加。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ○ | 地元「さいたま市民」と「大学生」との交流 | 全学部生 | 11月 | 植屋研究室及び学生・就職課内学友会 | 2 | 将来的に若い力による地域の活性化につながる。 地元子供たちとの交流によって子供や地域から喜びを得る。 福祉職としての温かい気持ちや思いやりの心の育成。 支援活動によって授業の実践的教育効果を得る。 |
| 共立女子大学短期大学部 | クリスマスチャリティーコンサート | 学内の資源を活用したボランティア企画 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | | 全学生 | 12月 | 共立女子大学・短期大学ボランティアセンター | 3 | 1. ボランティア活動への理解と関心の向上 2. チャリティー先である「日本盲導犬協会」への協力と理解 3. 学生同士のボランティア情報の交換 |
| 共立女子大学短期大学部 | 地域と連携した活動の支援 | ・地域の要請に合ったボランティア活動への学生参加支援 ・地域のボランティアセンターなどと共同で行うボランティア活動の実施 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | | 全学年 | 通年 | 共立女子大学・短期大学ボランティアセンター | 3 | ・学生が自己の可能性を発見し、自信がつく。 ・学生の地域への関心、結びつきの強化ができる。 |
| 国際短期大学 | 沼袋アンブレラハウス | 西武新宿線沼袋駅(最寄駅)の利用者と地域住民のための傘の無料貸し出しコーナー「沼袋アンブレラハウス」にある傘が使えるかどうかをチェック。 使える傘には「沼袋アンブレラハウス」と明確に判るように表示。また、小さな穴が開いている傘などは修理もする。 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | ○ | 沼袋駅の利用者・地域住民へのサービス | 全学生 | 11・12月 | 教務学生課 | | 地元の方々との交流、学生ボランティアに対する考え方が変わってきた |
| 自由が丘産能短期大学 | ボランティア活動表彰 | ボランティア活動への感謝状の授与 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 個人および団体表彰 | 常時受け付け | 学生総合サービスセンター | 2 | ボランティア活動への積極的参加 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者 数 | 支援したことによる 効果 |
|----------|-------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|------|----------------|------------------|------------|------------|--|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | |
| 淑徳短期大学 | 子育て支援相談室の運営 | ・子育てに悩む保護者、保育関係者を対象に週一回の相談日を設け、本学教員による面接相談を行っている。 ・相談中の保護者の便宜を計るためセンター内にキッズコーナーを設け託児を行っているがキッズコーナーの壁面作成および託児のボランティアとして学生を募集し学内でできる新しいボランティア活動先として定着しつつある。 | ○ | × | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | 全学年 | 通年 | ボランティアセンター | 2 | ・託児や壁面製作の実践を通し、学生達の学習意欲の向上、地域課題等のきずき等視野の拡大が見られた。 ・相談活動を通し地域の他団体との交流の機会も増え地域に開かれた大学の役割を發揮する機会になった。 ・キッズコーナー登録ボランティアとして学習会や打合せ会等を企画し保育や福祉についての専門性の向上や実践力を高める場となっている。 |
| 淑徳短期大学 | 大学ノートテイカーの養成 | 聴覚障害学生の講義補償の一環としてノートテイカーの存在は必須であるが、そのためにはテイカー養成および、そのテイカーとの調整等が不可欠であるとの認識に立ち年数回の講習会および話し合いの場を設けている。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | 教育支援 | 全学年 | 通年 | ボランティアセンター | 1 | ・支援を必要としている学生に対する理解や授業に取り組む姿勢の改善が見られること。 ・障害をもつ学生の受入れに対する教職員の意識や対応の向上が計られたこと。 | |
| 女子美術短期大学 | ヒーリング・アートプロジェクト | 壁画の制作は主に長期休暇を利用して制作を行うため昼食のお弁当・交通費および絵具等材料を提供している。 | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | 1～2年・専攻科・別科 | 7・8・9月 | 学生支援センター | 4 | 病院内の入院患者・外来者・職員等の癒しとなる。 | |
| 東京短期女子体育 | ボランティア講座 | ・講座開講により、ボランティア活動の啓発 ・講座受講により、社会奉仕体験理論の単位認定 ・講座受講により、社会奉仕体験実習の単位修得へのステップアップ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | 全学年のうち、履修希望者 | 4・5月 | 地域交流センター | 14 | 本年度のボランティア講座は最も多いときで23名が受講し、受講した学生の多くが社会奉仕体験理論の単位が認定された。社会奉仕体験活動を行った学生から、「視野が広がった」などの感想が得られた。 | |
| 東京短期女子体育 | ボランティアサークル(サークル名:VRC)活動 | ・ボランティア活動の啓発 (優先的にボランティア情報を連絡) (普通救命講習会をサークルメンバー優先に開講) ・ボランティアサークルの活動報告支援 (ポスター作成・学園祭での活動報告に必要な消耗品等の準備等) | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | ボランティアサークルメンバー | 年中 | 地域交流センター | 8 | ボランティアサークルが発足して3年目を迎え、ボランティアについてのポスターを作成・掲示したり、学園祭では活動状況を展示・報告するなど、学生や教職員に広報している。このような取り組みによって、ボランティアに興味を示す学生が増えてきている。今後は、地域との取り組みも検討している。 | |
| 東京短期大学 | 東京富士大学 | | × | × | × | ○ | ○ | × | × | × | × | 短期大学部学生会(1・2年) | 4・3月 | 学生支援課 | 3 | ボランティア活動を支援することで、学生自らボランティア活動の場を探し参加している。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 |
|-----------|--------------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|-----------------------|---------------------|-------------------------------|------------|--|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 立教女学院短期大学 | ボランティアキャンプ | 毎年3月下旬に実施事前に申込をし準備会を数回実施し、施設へ3泊4日の泊まりのボランティアを行っている。既に22回の実績がある。 | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ | × | ボランティアキャンプ (全学年対象) | 3月 | アセンブリー・宗教委員会 | 3 | |
| 自由学園短期大学 | ネパールワークキャンプ | 毎年植林活動ボランティアを募り、3週間にわたり現地(カトマンズ郊外)で植林活動を行っている。 | × | × | ○ | ○ | × | × | × | ○ | × | 全学生 | 7・8月 | 自由学園 | 30 | 海外への関心が増した。英語をもっと勉強したい。日本を改めて見直すきっかけとなった。 |
| 正眼短期大学 | | 学内にボランティアセンターを設置し、学生との橋渡し役を行う。 | ○ | × | × | × | ○ | × | × | ○ | × | 学生 | 常時 | ボランティアセンター | 1 | 学生自らが、自発的ボランティアの芽を育てる事により、社会の一員としての、自覚が生まれた。 |
| 東海女学院短期大学 | | 情報提供、活動の相談・支援、ボランティアの登録・調整、ボランティア保険の手続き | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 福祉施設 | 年間を通して行っている | ボランティアセンター | 2 | ボランティア登録者が増え、ボランティアの関心が高まった。 |
| 名古屋短期大学 | クリーンアップ学生ボランティア | 学生にボランティアを体験させる ・学生支援センターにおいて、ボランティア事業(キャンパス内外の清掃)を企画し、参加者をグループ単位で募集する。 ・参加者には大学名入りジャンパー・軍手・ゴミ袋等を貸与する。 ・活動については、各グループの都合にあわせて適宜実施する | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | 全学生 | 4・5・6・7・10・11・12・1月 | 学生支援センター | 4 | 学生がボランティアに興味を示し、窓口にボランティア活動に関する情報提供を求めてくるようになった。 |
| 鈴鹿短期大学 | 障害児施設でのボランティア活動 交通遺児支援ボランティア活動 | 学生のニーズに合わせて、教職員が紹介 必要に応じて、ボランティア活動にかかれる講習会等を実施 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 障害者団体、各種団体 | 通年(必要に応じて) | 学生・教務課、学生委員会 | | 各種団体から活動に対するお礼やボランティアの継続が要請されている。 |
| 南山短期大学 | 国際協力フィールドワーク、国際協力ワークショップ | 授業科目として、国際協力フィールドワーク、国際協力ワークショップがあり、オーストラリア、フィリピンおよび国内在住の外国人支援などのボランティア活動を行っている。旅費等の支援の他、ボランティア活動先の開発を行っている。チャリティコンサート、バザー、募金活動の収益をフィールドワーク先に寄付している。 | ○ | × | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | 1年、2年、ボランティアサークル | 通年 | 学生委員会、国際協力フィールドワーク委員会、宗教教育委員会 | 20 | 建学の精神に基づく全学的な取り組みとして発展している。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならば空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-------------|-------------------------------|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|---------------------------|--------------|------------------|------------|--|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 光陵女子短期大学 | CIEE紹介による国際ボランティアプロジェクトへの参加支援 | 国際ボランティアプロジェクト参加者に対して、渡航費上限130,000円までを奨学金として給費している。 | × | × | × | × | × | × | × | ○ | × | 全学生 | 主に8月 | 事務局 | 3 | 海外にて同世代の異国の人人々と衣食をともにし、ボランティア活動を行うことで、奉仕の心以外に、国際社会を知る大変良い機会となっている。また、自国を振り返り、自らを見つめ直すきっかけにもなっている。そして、それらの経験を身近な友人から聞くことによって、参加学生以外の学生も諸外国について知ることができ、良い影響となっている。 | |
| 敦賀短期大学 | | ・特に定めはない。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 地域に関わるボランティアであればどんなことでも良い | 市少年愛護センターと連携 | 通年 | 教務課 学生係 | 2 | 今まで関わるのが少なかった分野・領域の方々と人間関係が生まれ、地域や社会の一員としての実感がでる。ボランティアを経験した学生は、大変なことはあるが、終了後の達成感や成就感を深く感じていると思われる。しかし問題点もある。一例をあげると、その年度によって意欲ある学生の質に格差があるので、招集人数にかなり差がでてくる。ボランティアの規模によって継続できることできないことが出てくる。 |
| 大谷大学短期大学部 | ノートテイクなど障害学生支援 | 大学主催のノートテイクなどの障害学生支援の有償ボランティアを、学生対象でおこなっている。 | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 全学生 | 授業のある期間。 | 学生支援部 学生課、教務部 | 4 | | |
| 大谷大学短期大学部 | ボランティア掲示板 | 各施設、団体から寄せられたボランティア募集のポスター・チラシなどをボランティア掲示板に掲示する。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 全学生 | 特に時期は定めていない。 | 学生支援部 学生課 | 2 | | |
| 龍谷大学短期大学部 | | ボランティア活動のための交通費補助 ボランティア活動先の開発 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 主にボランティア・NPO活動センター学生スタッフ | 通年 | ボランティア・NPO活動センター | 4 | ボランティア活動が活発化した、 | |
| 和歌山信愛女子短期大学 | 保育科カリキュラム中のボランティア論 | | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × | × | ○ | × | 1.2年 | | 宗教部 社会福祉担当 | 11 | 活動の活性化、ボランティア活動の意義の認識を深める | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|------------|---|---|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------|----------------------------|---|-----------------------------|---------------|--|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | その他の詳細 | | | | | | |
| 四條畷学園短期大学 | | | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | 1・2年 | 通年 | 教員 | 1 | |
| 甲子園短期大学 | 保育施設(幼稚園・保育所)実習ボランティア 介護施設介護実習ボランティア 地域文化活動支援 | 新たなボランティア活動先の開発 ボランティア活動内容充実のための支援 成果について評価と広報 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 学友会役員・児童文化部・手話部・園芸部・幼児教育保育学科学生・家政学科介護福祉士コース学生 | 8・9月 | 就職部・学生部・実習指導課 | 10 | 保育実習や介護実習の充実につながる。 就職への意欲が高まる。 社会人としてのマナーが身につく。 視野が広がり、社会性が身につく。 |
| 大阪城南女子短期大学 | 「NPOひまわり」という学生ボランティア組織運営 | ①毎年30施設以上、新規の施設を確保して、通常100施設以上のネットワークを有している。 ②「NPOひまわり」というクラブ活動に対して、年間5～6万円の財政支援がある。 ③地域社会の中のネットワークの中核としてステーション、ボランティアビューローのような役割を果たしている。 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | | 4・3月 | 「NPOひまわり」、人間福祉学科学生 | 3 | ①学生が、様々なボランティア活動に参加できる。 ②地域のボランティア活動を拡大していく。 ③地域の施設や組織の情報収集・発信場所として機能する。 | |
| 奈良佐保短期大学 | ボランティアゼミ | ・ボランティア参加者へ施設の紹介 | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 生活科学科 生活福祉専攻 1・2 | 通年 | ボランティアゼミ担当教員 | 1 | ・福祉を学ぶ学生が、実習以外の場に置いて、日常生活の援助が出来る最高の場となっている。 ・身体・知的障がい者・児を対象とした実習場で、ボランティアを通してコミュニケーションの取り方や、具体的日常生活の援助方法を学んでいる。また、家族との触れ合いを通して、障がい者の社会面においても深く学んでいる。 ・イベント参加などを通して、活動の企画・実施などがダイレクトに学ぶことができています。 | |
| 中国短期大学 | | | × | × | × | × | × | × | × | × | ○ | ○ | 学校園でのグッドスタート支援 岡山市内中学校園 | 4・5・6・7・9・10・11・11・12・1・2・3月 | 学生部学生課 | 2 | 学校に関わるきっかけとなり、教職を目指す学生にとっては、良い経験となっている。 | |
| 鈴峯女子短期大学 | | 活動を単位として評価し、活動意欲を高める。 | ○ | ○ | ○ | × | ○ | × | ○ | ○ | × | × | 学生自治会、ボランティア部 | 常時 | 学生自治会、学生自治会顧問、ボランティア部顧問、学生課 | 3 | 学生自治会主催のボランティア活動には常に大学職員が出席し、支援することにより、学生自身も大学から応援されている安心感があると思われる。 | |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担当 者数 | 支援したことによる 効果 | | |
|--------------|--------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|------------------|------------------------------------|-------------|-----------------------------|------------------------------|-----|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | | | | | | その他 | |
| 順正短期大学 | ボランティアセンター | | × | × | × | × | ○ | × | × | ○ | ○ | 大きく分けて4つあり、地域貢献、災害復興支援、国際貢献、障害学生支援 | 災害ボランティア登録者 | | ボランティアセンター・チュードントサポートセンター学生課 | 2 | |
| 山口短期大学 | 福祉レクリエーション総合実習 | ボランティア活動を1年次に60時間行う。施設でのボランティアの紹介をして頂くために情報収集をしている。市内ボランティア連絡会に加入し、市内のボランティア情報を収集している。他の資格の実習先からボランティア活動の情報収集をしている。メディアを通じて、ボランティア活動を促し、情報を収集している。 | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 1, 2年 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 学生支援センター | 2 | ボランティア活動を通じて人間関係をスムーズに行うコミュニケーション技術を高めたり、社会問題に関心がもてるようになった。ボランティア活動から将来の進路を考えるきっかけを持つようになった。本学の社会的な貢献が周辺地域の方々に理解して頂き、信頼も高まっている。 |
| 山陽大学 学園短期 | 学生支援ボランティア | 学生だけでなく、地域の人達や保護者も登録でき、特技やノウハウを活かして、学校園の教育活動を手伝う制度。 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | | 学校園 | 通年 | 学生部 | 5 | 学校という枠でなく、岡山市という広い範囲で活動でき、対人関係、地域貢献、環境問題等への取り組みなど活動分野も幅広い。よって社会性の涵養になる。 |
| 四国大学 学部 | | 新たなボランティア活動先の開発 ボランティア団体に対する財政支援 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | | 全学生 | 年間を通じて | 学生課・ボランティア推進室 | 7 | ボランティアに参加する学生数の増加 |
| 徳島文理大学 短期大学部 | | ・情報提供 ・事前指導 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | | ボランティア同好会 | 通年 | 学生部 | 1 | ボランティア活動の継続 |
| 愛媛女子短期大学 | | ボランティア団体の実施支援 地域の団体等と協力して積極的に参加しています。ゴミ拾い活動、赤い羽根共同募金の呼びかけなど。 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ | ○ | ○ | × | | 赤い羽根共同募金 | 10・11月 | 学生課 | 10 | 左記のことだけでなく支援・協力したことに学生の意識の向上(助け合う心)協調性などといった教育が地域でできるありがたさなど授業では得られない教育ができました。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|----------------------------|-----------------------|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|------------------|---------------|-----------------------------|----------------|-----------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 短期カタリナ大学部 | 松山市内4大学ボランティアネットワーク「4リングス」 | | | | | | | | | | | 街づくり | 松山市内4大学 | 平成16年9月～ | カタリナボランティアセンター | 8 | 松山市の活性化 |
| 福岡工業大学短期 | セーフティーパトロール隊 | 夜間の地域巡回 | × | × | × | × | × | ○ | × | × | × | | 地域支援 | 毎月1回 | 学生部学生課 | 2 | 地域犯罪の減少 |
| 福岡工業大学短期 | 学生サポーター | 幼稚園、小・中学校等の施設での教育補助 | × | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | | 幼稚園、小・中学校等の施設 | 年間 | 学生部学生課 | 2 | 派遣先の子供たちが夢や希望を見出し、また、学生の皆さんも、さまざまな体験を通して、自らのものの見方や考え方を広げていく |
| 福岡工業大学短期 | キャンパスクリーン | キャンパス内及び周辺地域の清掃 | × | ○ | × | ○ | × | ○ | × | × | × | | 地域住民 | 毎月1回 | 学生部学生課 | 3 | 環境美化に対する啓蒙 |
| 福岡工業大学短期 | | 老人介護福祉施設での介護補助 | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | | 老人介護施設 | 年間 | 学生部学生課 | 1 | 介護福祉に関する知識向上 |
| 福岡工業大学短期 | | 海開き前の海岸清掃 | × | × | × | ○ | × | ○ | × | × | × | | 地域の海岸 | 6月 | 学生部学生課 | 1 | 環境美化に対する啓蒙 |
| 佐賀大学短期 | ボランティアセンター | 卒業まで60時間で一単位修得 | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | | 全学生 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 学生課 | 1 | |
| 宮崎女子大学短期 | | ボランティア活動の紹介、仲介を行っている。 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | × | | 1、2年 | 通年 | 学生部 | 1 | ボランティア参加により、地域の信頼を得ている。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にならぬ場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援 担当者数 | 支援したことによる 効果 | |
|-----------|-------------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|------------------|--------------|------------|--------------|-----------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | | その他の詳細 |
| 聖園短期大学 | 延岡子供センター | 地元自治体との共同事業の形態で地域の子供達を集めて、月一回のイベントと年三回の情報誌の発行を実施 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | × | 市内の未就学児及び小学生 | 年間通して実施 | 子どもセンター委員会 | 6 | 学生のボランティア意識の向上 幼児教育学科学生の、子どもを対象とした指導力の向上 食物栄養学科学生における食育指導のトレーニングの機会の増加 |
| 九州造形短期大学 | 福岡県遠賀郡芦屋町主催「砂浜の美術展」への参画 | ボランティア体験した学生に単位を付与している。 | × | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 1・2年次生 | 8月 | 事務部事務課 | ## | 学生がボランティア活動(地域活動)へ積極的に参画することにより「学習意欲の向上」及び「ボランティア活動の意義の再確認」に繋がった。 |
| 第一保育短期大学 | 幼児教育研究会 | 学生は、幼児文化・幼児体育・福祉活動・運動あそびの研究の部会に属し、保育者としての研究と実践に取り組み、有意義な活動を行っている。 その結果は近郊の幼稚園・保育園・施設等の誕生会・文化祭などへの支援の形で活動を展開し、地域行政とも連携しての向上等に寄与している。 | ○ | ○ | ○ | × | × | ○ | ○ | × | × | × | 全学生 | 6・7月 | 学生課 | 80 | 1. ボランティア参加意識の向上 2. 環境・美化への貢献 3. ボランティア活動への「きっかけづくり」 4. 学生相互の精力的な「やる気」の発揮 5. ボランティア活動を行なう学生への積極的な評価 |
| 秋田門工業高等学校 | | | ○ | × | ○ | × | × | × | × | × | × | × | RCY同好会 | 通年 | 学生課学生係 | 3 | |
| 木更津工業高等学校 | 特別学習(ボランティア活動) | 新たなボランティア活動先の開発 | ○ | ○ | ○ | × | × | × | × | × | × | × | 全学年・学科 | 通年 | 担当教員 | 1 | 学生の視野を広げることに効果的であり、受講者が増加傾向にある。 |
| 大島商船高等学校 | | ボランティア団体の移動等援助 ボランティア団体に対する財政支援 | × | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | × | × | 大島商船ボランティア隊 | 通年 | 学生主事室、学生課学生係 | 10 | 学生のボランティア意識を高めるとともに、学校のPRにもなっている。 |

参考資料

| 学校名 | 名称 (特にない場合は空欄) | 支援の概要 | 支援するボランティア活動分野 | | | | | | | | | 支援対象 (団体・学年等) | 支援時期 | 支援担当 部署 | 支援担 当者数 | 支援したことによる 効果 |
|----------|-------------------|--|----------------|-----------|---------------|------|------|------|------|-----------|-----|--------------------------|-----------------------------|----------------|------------|---|
| | | | 医療福祉 | 社会教育・生涯学習 | 学術・文化・芸術・スポーツ | 環境問題 | 災害救助 | 地域安全 | 人権平和 | 国際協力・国際交流 | その他 | | | | | |
| 阿南工業高等学校 | | ①新たなボランティア先の開発, ②クラブ活動部費による保険料負担。③器具機材の貸出(パソコン, プロジェクターなど) | ○ | × | ○ | ○ | × | × | ○ | × | × | ①ボランティア部②全学年の個人ボランティア参加者 | 4・5・6・7・8・9・10・11・12・1・2・3月 | 副学生主事, 学生課学生係 | 2 | ・学生の自主性, 責任感など人間的成長をとげることができる ・学生のニーズを満たし本校学生としての誇りをもつことができる |
| 沖縄工業高等学校 | | ボランティア活動に使用する設備・備品の調達活動に関する説明会開催 | × | ○ | × | × | × | × | × | × | ○ | 環境整備・美化活動 | 各学級, 希望学生 | 学生課教務係, 学生課学生係 | 8 | 学生がスムーズに活動を行えるようにする |
| サレジオ専門学校 | プレテックボランティア活動 | 特になし | × | × | × | ○ | × | × | × | × | × | 1, 2年 | 6・9月 | プレテック | 6 | 不明 |